

構造関係共通事項

1. 構造設計条件

(1) 地震力
標準せん断力係数 $C_0 = 0.2$ (一次設計)
地震地域係数 $Z = 0.9$
地下震度 $K = 0.1$

(2) 風圧力
速度圧 $q = 0.6EVo^2$ 基準風速 $V_0 = 30$ m/s
地表面粗度区分 III
風力係数 告示 平2 建告第1454号 第3による

(3) 積雪荷重
垂直最深積雪量 130cm 多雪区域
1cm 当りの単位重量 30.0 N/m²cm
長期 $130 \times 30 \times 0.7 = 2730$ N/m²
短期(積雪時) $130 \times 30 = 3900$ N/m²
短期(地震時) $130 \times 30 \times 0.35 = 1365$ N/m²

(4) 土圧
土の単位体積重量 18.0 kN/m³ 地下水位 設計GL -2.34 m (地盤調査No.1より)

(5) 積載荷重 (N/m²)

| 部位 | 床 | 小梁 | 梁・柱 | 地震 | 部位 | 床 | 小梁 | 梁・柱 | 地震 |
|---------------------|--------------|--------------|--------------|------|----------------------|------|------|------|------|
| 屋根・庇 | 2730 | 2730 | 2730 | 1365 | プール | 300 | 300 | 250 | 150 |
| 室外機置場 | 2730 4900 | 2730 4900 | 2730 1365 | 1365 | プール配管ピット キャットウォーク | 1000 | 1000 | 600 | 400 |
| 玄関ホール・ポーチ デッキテラス | 3500 | 3500 | 3200 | 2100 | 用具庫 | 7800 | 7800 | 6900 | 4900 |
| プールサイド シャワー室 | 3500 | 3500 | 3200 | 2100 | 機械室 | 5900 | 5900 | 4900 | 3900 |
| スロープ・階段 | 3500 | 3500 | 3200 | 2100 | | | | | |
| 事務所・廊下 更衣室・靴 | 2900 | 2900 | 2100 | 1100 | | | | | |

(6) 特殊荷重 (kN)

| 名称 | 階 | 重量 | 名称 | 階 | 重量 |
|----|---|----|----|---|----|
| | | | | | |
| | | | | | |

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

| 使用箇所 | 種類 | 設計基準強度 F_c (N/mm ²) | 所要スランプ (cm) | 備考 |
|-----------|----|-----------------------------------|-------------|----------------------------|
| 基礎部躯体 | 普通 | * 27.0 | 15 | |
| 1階床 | 普通 | * 27.0 | 18 | |
| 上部躯体 | 普通 | * 27.0 | 18 | キャットウォーク含む |
| パラベット | 普通 | * 24.0 | 18 | |
| 後打階段・スロープ | 普通 | * 24.0 | 18 | ポーチ玄関・プール室外土間階段 機械室階段 |
| 雑コン | 普通 | 21.0 | 18 | 機械基礎・ハト小屋・ファルム・煙突 口・手洗い |
| 防湿コン | 普通 | 18.0 | 15 | |
| 捨てコン | 普通 | 18.0 | 15 | |

*印の表注強度は設計基準強度 (F_c) + 構造体強度補正値 (S) とする。
主要構造部は、柱、梁、壁、スラブを示す。
雑コンを主要構造部と一体打ちする場合は、主要構造部の強度に合わせる。
階段手摺のコンクリート強度は、附属する階段の強度にならうものとする。

(2) コンクリートブロック (CB)

| 種類 | 厚さ | 使用箇所 | 備考 |
|----|----|------|----|
| | | | |

(3) 鉄筋

| 種類 | 種類 | 径 | 使用箇所 | 継手工法 |
|---------|--------------|---------|----------------|--------|
| 異形鉄筋 | SD295A | D10~D16 | せん断筋・基礎筋・スラブ壁筋 | 重ね継手 |
| | SD345 | D19~D25 | 柱梁主筋 | ガス圧接継手 |
| | SD390 | D29 | 柱主筋 | ガス圧接継手 |
| ガス圧接の工法 | ・アセチレン ○天然ガス | | | |

3. 共通事項

(1) 構造図に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
公共建築工事標準仕様書(令和7年版)「以下標準」、
建築鉄骨設計基準及び同解説(平成10年版)による。

(2) 鉄筋の断面表示

| 記号 | ● | × | ◇ | ○ | ◎ | ⊗ |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|
| 異形鉄筋 | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 D29 |

(3) 各階伏図における記号は下表による。

| 記号 | 説明 | 記号 | 説明 |
|-----|-------------------|-----|---------------|
| ○ | スラブの配筋種別 | ◇ | スラブ厚さ |
| ▨ | コンクリートブロック壁 (CB壁) | ⊗ | スラブ開口 |
| [±] | FLからの上がり下がり | (±) | FLからの梁の上がり下がり |

- (4) 配筋の種類及びかぶり厚さ
a: 壁、スラブ、階段等の配筋種別は、標仕 各部配筋参考図 (4.1) ~ (6.2) による。
b: 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔は、標仕 5.3.5による。
c: 目地にシーリングがある場合の最小かぶり厚さは標仕 (表5.3.6) の「仕上げなし」の項による。
- (5) 鉄筋の継手及び定着
鉄筋の継手及び定着は、標仕 5.3.4による。
- (6) 骨材、水及び混和材料
骨材、水及び混和材料は、標仕 6.3.1による。
- (7) コンクリートの強度試験方法
コンクリートの強度試験方法は、標仕 6.9.3 ~ 6.9.5による。
- (8) コンクリートの調合
コンクリートの調合は、標仕 6.3.2による。
- (9) コンクリートの養生
コンクリートの養生は、標仕 6.7.1 ~ 6.7.3による。
- (10) コンクリートの型枠の取外し時期
コンクリートの型枠の取外し時期及び方法は、標仕 6.8.4による。
- (11) コンクリートの打継ぎ
コンクリートの打継ぎ位置、打継ぎ部の処理法、及び補強筋の有無は監理者の確認を要する。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎
根切底 GL - m
地盤の許容応力度 (長期) kN/m²
平板載荷試験 有・無 (位置は別途指示)
- (2) 杭基礎
工法 プレボーリング拡大根拠の摩擦杭工法 (大臣認定工法)
杭径・材料・種別 400500φ: 上杭: 400550φ10m (PHC105M-C種) + 下杭: 400550φ11m (PHC節杭-A種)
500650φ: 上杭: 500650φ10m (PHC105M-B種) + 下杭: 500650φ11m (PHC節杭-A種)
600750φ: 上杭: 600750φ10m (PHC節杭-B種) + 下杭: 600750φ11m (PHC節杭-A種)
700900φ: 上杭: 700900φ10m (PHC節杭-B種) + 下杭: 700900φ11m (PHC節杭-A種)
杭先端 設計GL-21.65m/-22.0m/22.25m/22.4m
杭の許容支持力 (長期) 400550φ: 1340 kN/本
500650φ: 1700 kN/本
600750φ: 1990 kN/本
700900φ: 2440 kN/本 以上とすること。
許容支持力算定式 $R_a = 1/3 \times [\alpha \cdot \bar{N} \cdot A_p + (\beta \cdot \bar{N}_s \cdot L_s + \gamma \cdot \bar{Q}_u \cdot L_c) \cdot \phi]$
 α : 280 以上
 β : 認定による
 γ : 認定による
杭工事業者: 杭工事業者は、工事に相応した技術を有することを証明する資料(支持力計算含む)を、監理者に提出し、承認を得ること。
施工のために必要となる杭頭杭先端金物を適宜、全杭について見込むこと。
施工計画書: 杭工事施工計画書を作成し、監理者の承認を得ること。

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) 杭基礎
杭の偏心及び高まりした場合は、監理者と協議すること。
杭のヘリあきは1.2D以上を確保する。
- (2) 柱
a: 土に接する柱周囲の増打ちは下図による。
b: 柱頭で梁内に定着 (L2) がとれない場合 (※) の補強は下図による。
c: 柱増打ち部分に壁、梁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。
d: 柱増打ち部の記載なき軸方向補強筋の定着長さは20d以上とする。

(3) 梁

- a: 大梁主筋の定着寸法および逃げ寸法の標準値は下図による。
b: 柱面と梁面が同一面の場合、柱主筋径分だけスターラップ幅を狭めて下図のように加工する。
c: 梁主筋2段配筋では、2段目の鉄筋も主筋として所定の位置に下図のように正しく配筋する。
d: 梁増打ち部分に床、壁、梁等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。
e: 梁の増打ちが途中で終わる場合、軸方向補強筋の定着長さはL2とする。
f: 梁貫通孔の補強に、建設技術評価規定に基づく評価または日本建築センターの評価を受けた製品を監理者の承認により使用してもよい。使用にあたってはあらかじめ監理者と打ち合わせを行うこと。
g: 貫通孔の位置は下図のように開口をさき±45度の領域には他の開口を設けないこと。

(4) 壁 (RC壁)

- a: 鉄筋の配筋は耐震性を示し、配筋はH・Kに同じでかぶり厚さ・継手及び定着長さは標仕 表5.3.3~5.3.4、標仕別添 4.2~4.3による。
b: パラベット壁の厚さは100とする。配筋は特記による。
c: 1) 開口補強 (設備開口を含む) は特記による。特記がなければ、一般壁はA形、耐震壁B形とする。
2) シングル配筋の壁で壁類が埋設される場合は、下記補強を行う。
d: 壁筋の柱・梁内への定着は下図による。
e: 増打ち部分に壁、床版等がとりつく場合、それらの定着長さには増打ち厚さを含まない。

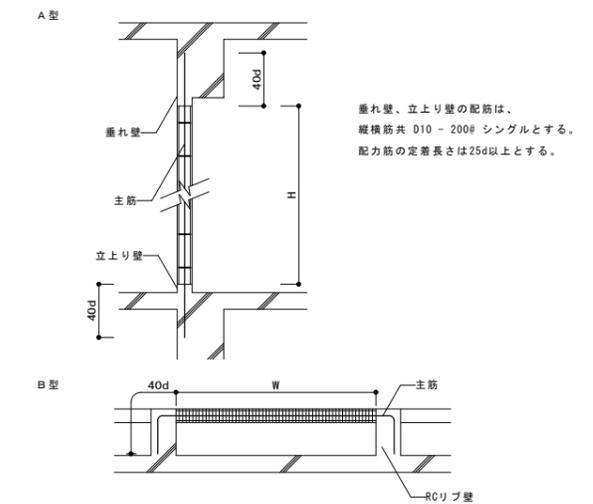
(5) 床版

- a: 1階のRC壁下に基礎小梁がない場合、土間コンクリートに下図の補強を行う。

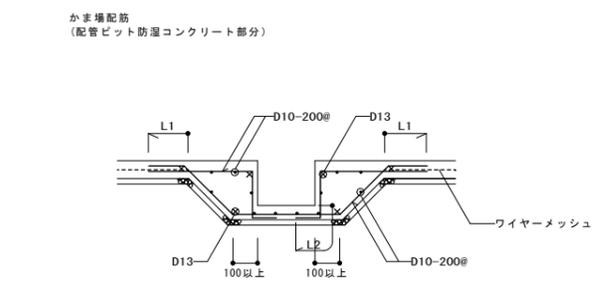
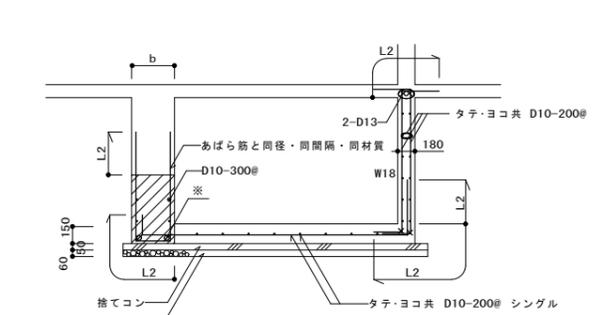
(6) 雑配筋

- a: コンクリートブロック 横壁 (CB)
CBの積み高さ (H) 又は積み巾 (W) は下表の値を最大とし、その上又は下に同じ厚さのRC壁、若しくはその両側にRC壁を設ける。
なお、RC壁は標仕 別添 各部配筋 (7.3) による。
記載なき限り、下記に示すA型を用いる。

| C Bの厚さ | 100 | 120 | 150 |
|----------|------|------|------|
| H又はWの最大値 | 2400 | 3000 | 3400 |



- b: 特記なきピットの詳細は下記による。
但し※は、b ≤ 350mmの場合 2-D16、b > 350mmの場合 3-D16とする。



構造関係仕様(鉄骨造)

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨

| 種類 | 使用箇所 |
|-----------------|--|
| 鋼材 | SN490B 柱・小梁・スチフナープレート・リブプレート・スプラインプレート |
| | SN400B 柱 |
| | SS400 小梁・座屈止め・水平ブレース・ガセットプレート |
| | SN490C ベースプレート |
| | STKN490B 方柱 |
| | SSC400 折版受け |
| | STLR400 タイフレーム受け |
| 鋼材 (溶融垂鉛めっき) | ※コンクリートに打ち込まれる部分以外は溶融垂鉛めっきとする |

(2) ボルト

| ボルト名 | 種類 |
|---------|----------------------|
| 高力ボルト | S10T・F8T |
| アンカーボルト | ABR400・ABR490 |
| 普通ボルト | 4T(強度区分4.6以上)ゆるみ止め仕様 |

(3) その他

現場溶接 (有) ・ 無

(4) 製作工場

建築基準法第77条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「Mグレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

(5) 防錆塗装

素地調整 C種
防錆塗装 A種 JIS K 5674 1種 2回塗り
溶融垂鉛めっき (有) ・ 無 HDZT77以上(板厚6mm以上)
HDZT63以上(板厚3.2mm以上)
HDZT49以上(普通ボルト・ナット・アンカーボルト)

(6) 接合部の検査

溶接部の検査(検査結果は後日監理者に報告すること)

| 検査箇所 | 検査方法 | 検査率又は検査数 | | | 備考 |
|---|-----------------------|----------|------|-------|----|
| | | 社内 | 第三者 | 工事監理者 | |
| 突合せ溶接部 (完全溶込み溶接部) | 超音波探傷試験 | 100% | * % | — % | |
| | 外観(目視)検査 マクロ試験・その他 | 100% | 100% | — % | |
| 第三者検査機関名 | CIW認定業者 | | | | |
| 第三者検査機関とは、建築主、監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう | | | | | |

注) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。

* 印の検査水準は第6水準A O Q L 4 %とする。

(7) 現場溶接

主要構造部材への現場溶接は、原則として行わないものとする。
ただし、必要性が生じた場合は監理者の承諾を受け標仕7.6.3により、適正な溶接工が作業を行うものとする。
※方柱の溶接は、AW検定の有資格者とする。(技量試験は省略)

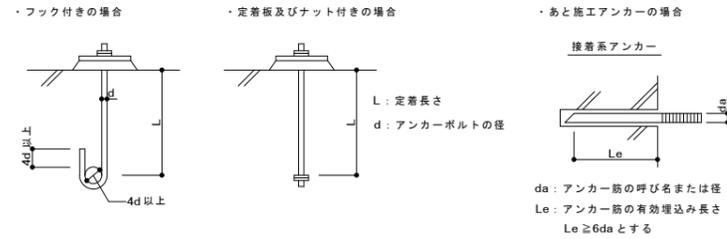
(8) 溶融垂鉛めっきを行う場合の修正及び補修

a: 溶融垂鉛めっきにより、許容誤差以上の歪み、ねじれ等がある場合は、鉄骨精度測定指針(日本建築学会)による許容誤差以内に修正する。
b: 運搬中の衝撃、摩擦、ビス止め等による垂鉛めっき部分の損傷箇所および切断面等のめっき箇所の補修は標仕表14.2.4による。

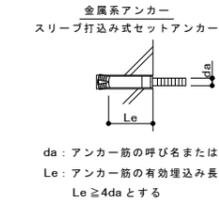
(9) 普通ボルト接合

母屋・鋼縁類の取り付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合、ゆるみ止め(2重ナット等)を設けること。

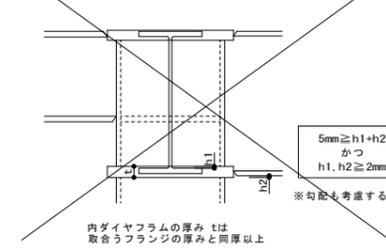
(10) アンカーボルト等の定着



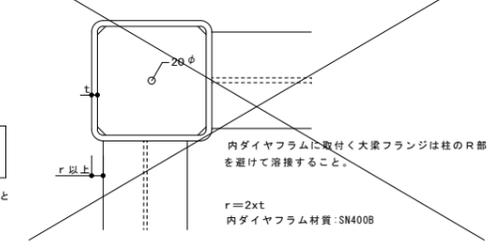
※引張試験の抜取り数、試験耐力は監理者との協議による



(11) ダイアフラム厚 要領図



(12) 内ダイアフラム時の梁の寄り

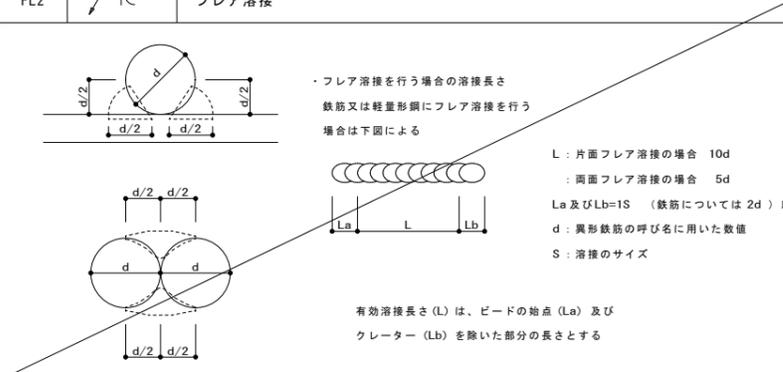


溶接基準図

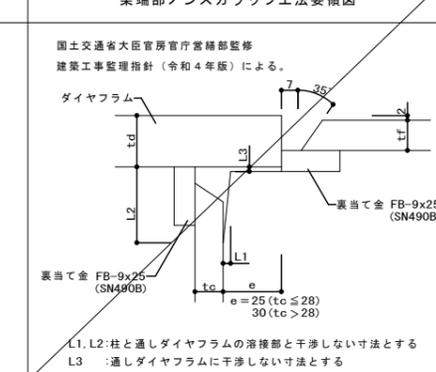
| HT1 | レ形突合わせ | HB1 | レ形突合わせ | F2 | 隅肉溶接 | F1 | 隅肉溶接 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------------------------|-----|------------|-----|---|----|--------|----|-----|-----|---|------|---|---|---|----|--|---|---|---|----|-----|-----|---|------|---|---|---|----|
| | 6 < t ≤ 32 | | 6 < t ≤ 32 | | t ≤ 16 | | t ≤ 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | $\frac{1}{4} t \leq S \leq 10$ | | | | <table border="1"> <tr> <th>t</th> <td>6</td> <td>~9</td> <td>~12</td> <td>~16</td> </tr> <tr> <th>S</th> <td>せん断口</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> </table> | t | 6 | ~9 | ~12 | ~16 | S | せん断口 | 5 | 7 | 9 | 12 | | <table border="1"> <tr> <th>t</th> <td>6</td> <td>~9</td> <td>~12</td> <td>~16</td> </tr> <tr> <th>S</th> <td>せん断口</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> </table> | t | 6 | ~9 | ~12 | ~16 | S | せん断口 | 5 | 7 | 9 | 12 |
| t | 6 | ~9 | ~12 | ~16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| S | せん断口 | 5 | 7 | 9 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| t | 6 | ~9 | ~12 | ~16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| S | せん断口 | 5 | 7 | 9 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

FL2

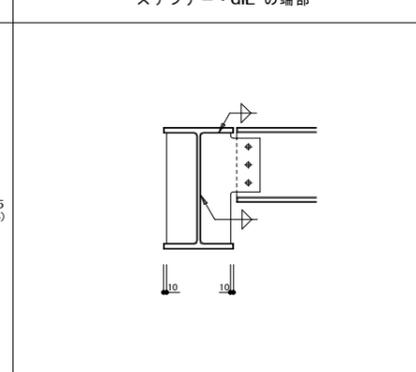
フレア溶接



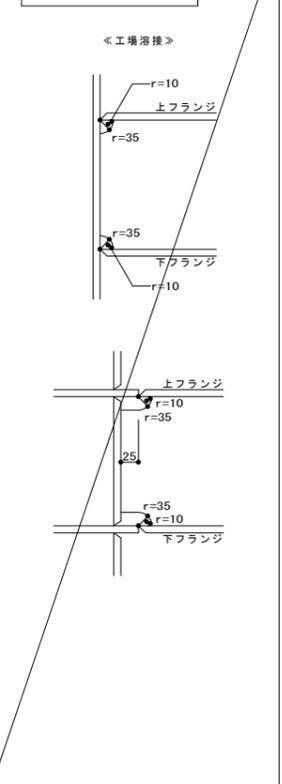
梁端部ノンスラップ工法要領図



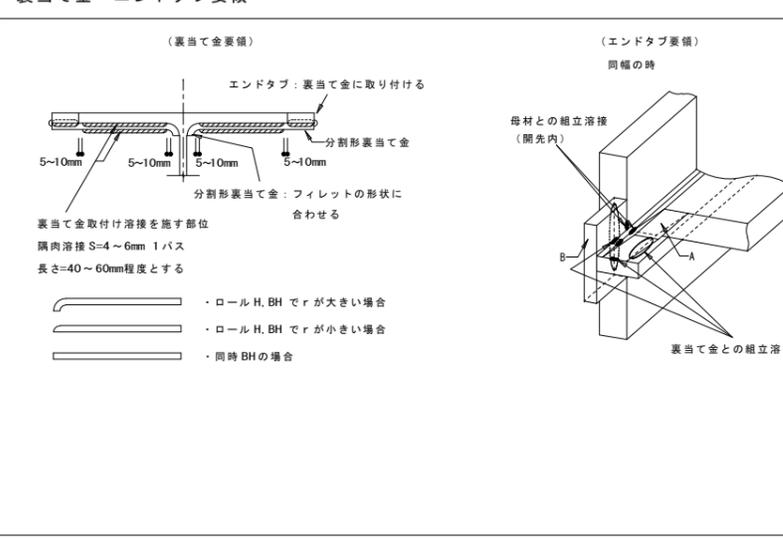
スチフナー・GIRLの端部



スカルップ要領



裏当て金・エンドタブ要領



共通事項

- 鉄骨図面に記載なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修・建築構造設計基準及び同解説(平成16年版)または、日本建築学会・建築工事標準仕様書JASS6 鉄骨工事による。
- 本溶接基準図は特記なき場合は、手溶接又はCO2半自動溶接とする。
- 溶接材料の強度は母材の強度以上とする。
- 裏当て金の材質は母材と同等以上の材を使用することを原則とする。取付は断続隅肉溶接とする。
- 裏当て金のない完全溶込み溶接は裏はつり後、裏溶接とする。
- エンドタブの材質は母材と同等以上の材とし、形状は同厚、同開先のものを使用することを原則とする。
- 余盛りの値fは次のように定める。
・突合せ溶接 $0.5mm \leq f \leq 3mm$
・隅肉溶接 $f \leq 0.1S+1mm$
- 組立溶接の脚長は4mm以上、ビード長さは40mm以上とし母材の開先内には行わない。
~~(8) ノンスラップ工法とする。~~

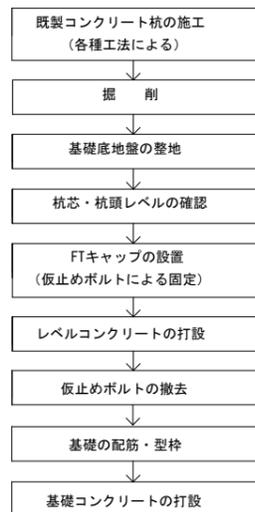
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーパ状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭：各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭等）
- ・杭径：300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部）：普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

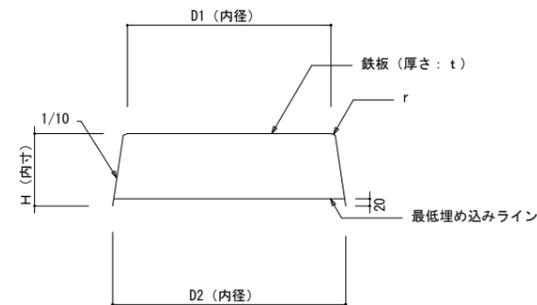
■施工手順



*留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーパ型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木槌等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

■FTキャップ（テーパ型枠）仕様

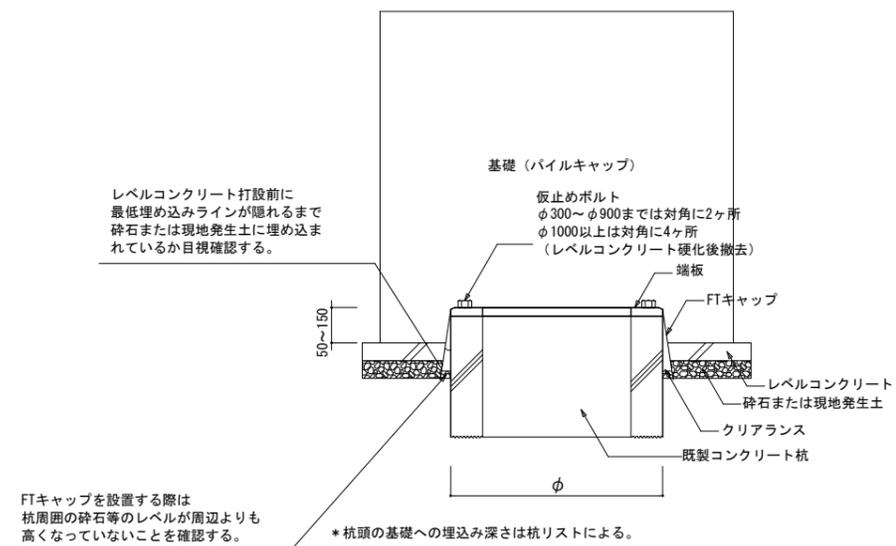


| 杭径：φ | 鉄板厚さ：t (mm) | D1 (mm) | D2 (mm) | H (mm) | r (mm) | W (kg) |
|------|-------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 300 | 1.2 | 301 | 345 | 201 | 2.0 | 1.8 |
| 350 | 1.2 | 351 | 395 | 201 | 2.0 | 2.3 |
| 400 | 1.2 | 401 | 445 | 201 | 2.0 | 2.7 |
| 450 | 1.2 | 451 | 495 | 201 | 2.0 | 3.2 |
| 500 | 1.2 | 501 | 545 | 201 | 2.0 | 3.8 |
| 600 | 1.6 | 601 | 645 | 201 | 2.0 | 7.2 |
| 700 | 1.6 | 701 | 745 | 201 | 2.0 | 9.0 |
| 800 | 2.0 | 801 | 845 | 201 | 2.0 | 13.8 |
| 900 | 2.0 | 901 | 945 | 201 | 2.0 | 17.4 |
| 1000 | 2.3 | 1001 | 1045 | 201 | 2.0 | 23.9 |
| 1100 | 3.2 | 1101 | 1145 | 201 | 2.0 | 38.6 |
| 1200 | 3.2 | 1201 | 1245 | 201 | 2.0 | 44.3 |

*FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。

- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
- ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図

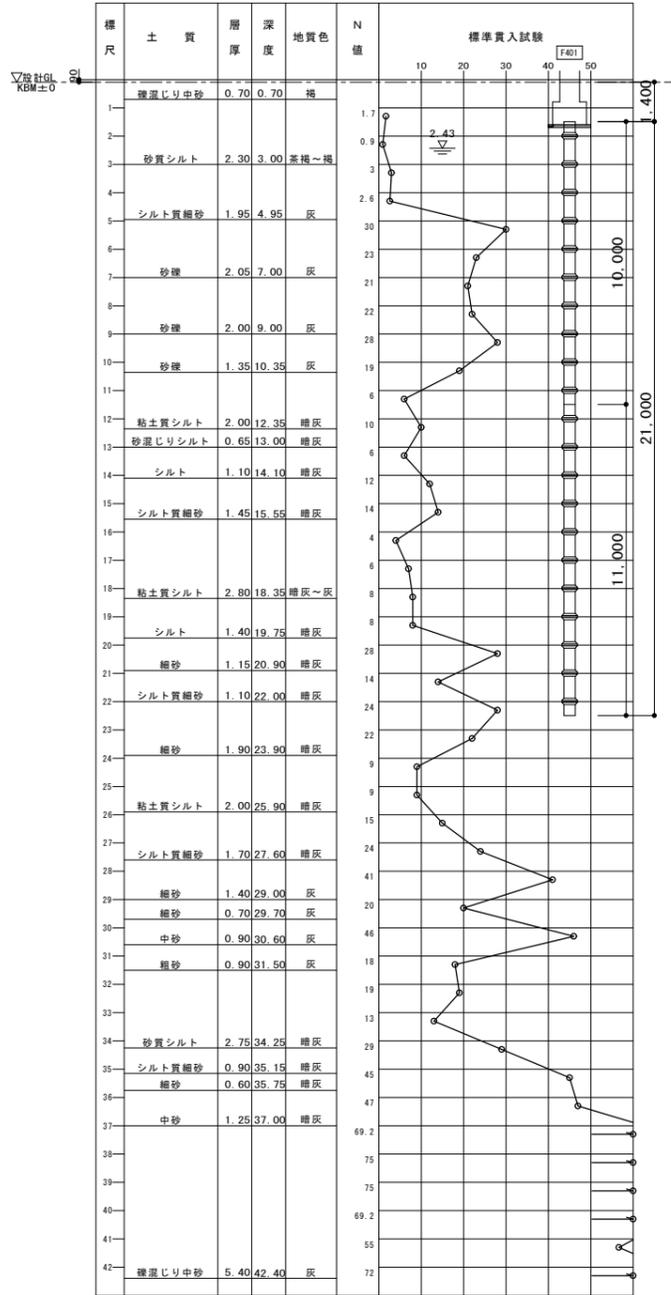


レベルコンクリート打設前に最低埋め込みラインが隠れるまで砕石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。

FTキャップを設置する際は杭周囲の砕石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。

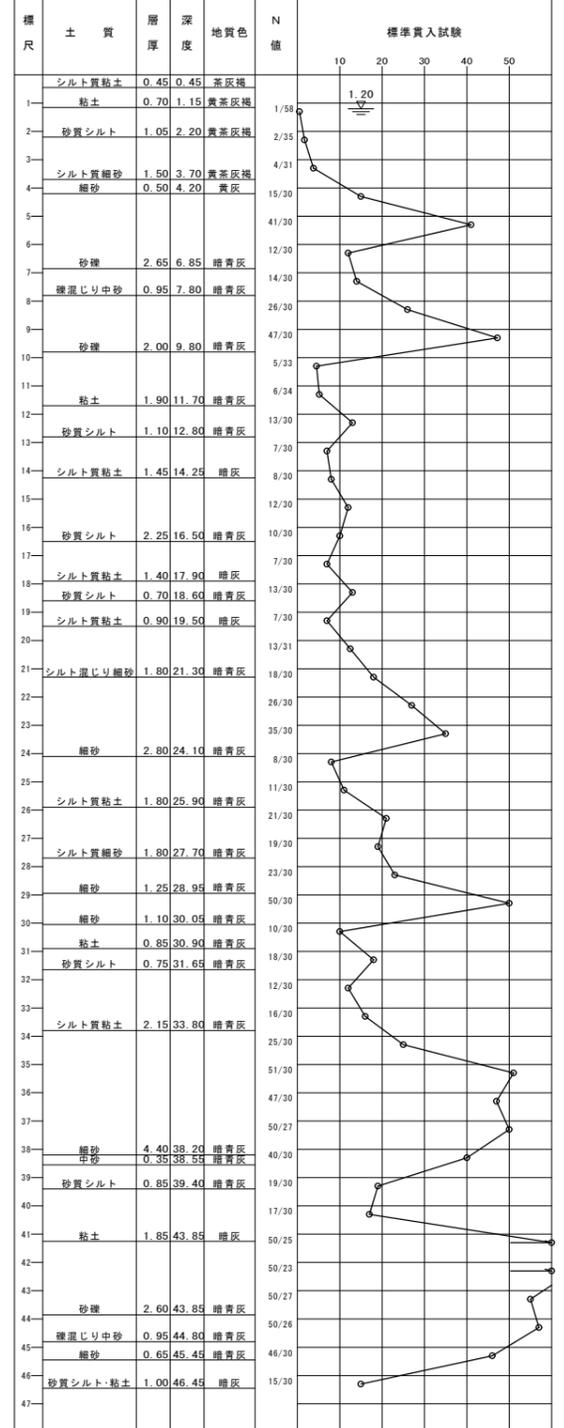
*杭頭の基礎への埋め込み深さは杭リストによる。

No. 1 孔口標高: KBM+0.09m 孔内水位: 孔口-2.43m

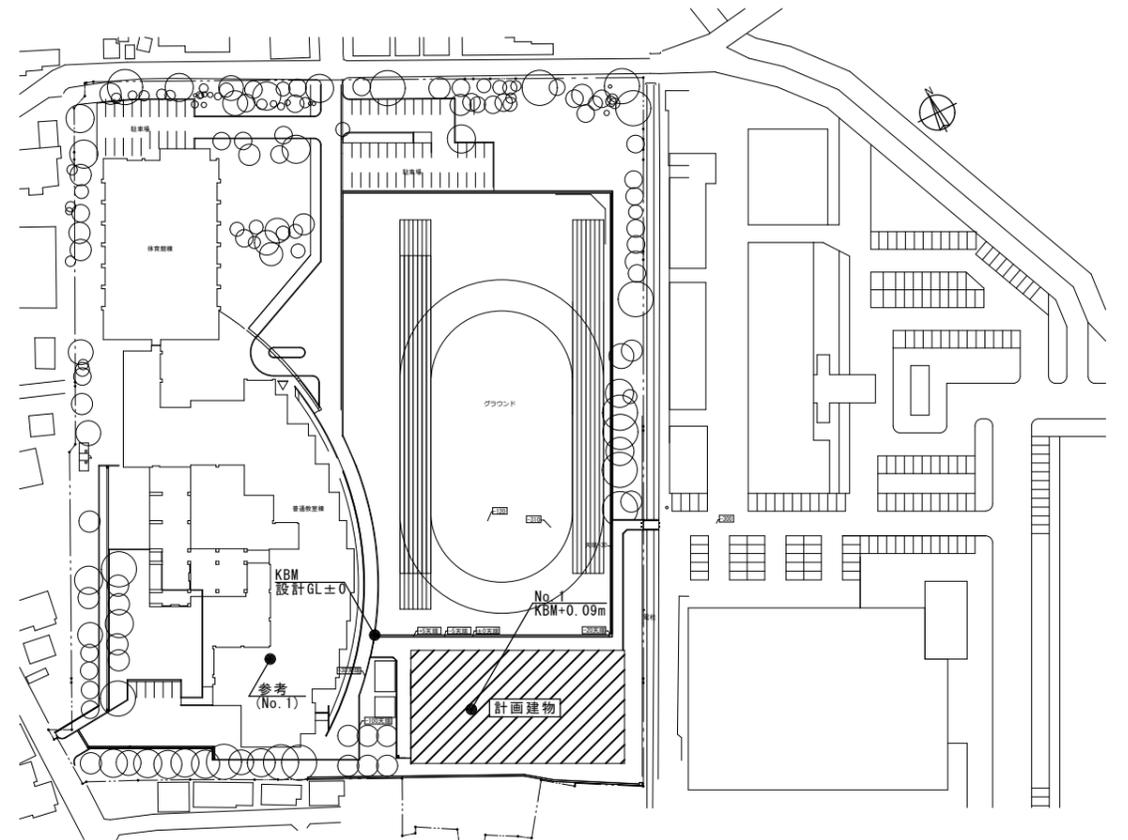


ボーリング柱状図

参考 (No. 1) 孔内水位: 孔口-1.2m 1996.7



調査位置図



阿賀野市

| | | |
|--------------------------|------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事 (建築) | 区分 実施設計 | 図面番号 S-04 |
| 図面名称 ボーリング柱状図 | 縮尺 - | 電機 - |

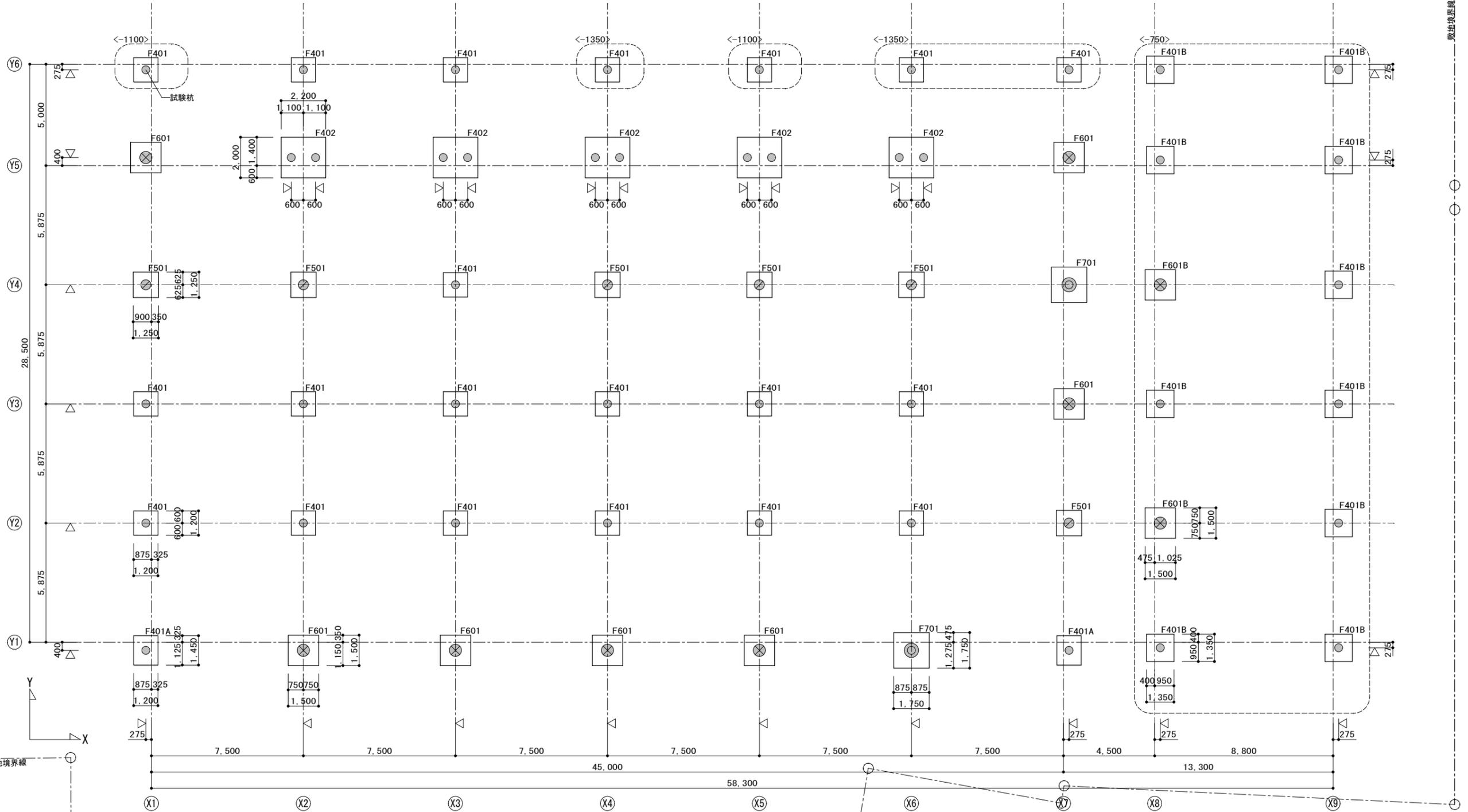


杭仕様

| 工法 | プレボーリング根固め摩擦杭工法(大臣認定工法) | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------------------|-----|-----|--------------------------|-----|-----|----------------------|-----|-----|----------------------|-----|-----|
| 杭種 | P40 | | | P50 | | | P60 | | | P70 | | |
| 上杭 | 400550φ:PHC節杭105N C種 10m | | | 500650φ:PHC節杭105N B種 10m | | | 600750φ:PHC節杭 B種 10m | | | 700900φ:PHC節杭 B種 10m | | |
| 下杭 | 400550φ:PHC節杭 A種 11m | | | 500650φ:PHC節杭 A種 11m | | | 600750φ:PHC節杭 A種 11m | | | 700900φ:PHC節杭 A種 11m | | |
| 支持力 | 1340 kN | | | 1700 kN | | | 1990 kN | | | 2440 kN | | |
| | 基礎符号 | 基礎数 | 杭本数 | 基礎符号 | 基礎数 | 杭本数 | 基礎符号 | 基礎数 | 杭本数 | 基礎符号 | 基礎数 | 杭本数 |
| | F401 | 20 | 20 | F501 | 6 | 6 | F601 | 7 | 7 | F701 | 2 | 2 |
| | F402 | 5 | 10 | | | | F601B | 2 | 2 | | | |
| | F401A/F401B | 12 | 12 | | | | | | | | | |
| | 合計 | | 42 | 合計 | | 6 | 合計 | | 9 | 合計 | | 2 |

特記外は下記による

| | |
|--------------------|--------------------|
| 杭芯を示す | △ |
| 設計GL | 1FL-1200 |
| 基礎下端 | 設計GL-1500 1FL-2700 |
| < >は設計GLからの基礎下端を示す | |
| 杭天端 | 基礎下端+100 |



杭基礎伏図 S=1/100
(見下げ図)

阿賀野市

工事名称
学校屋内プール整備工事(建築)

図面名称
基礎杭伏図

区分
実施設計

図面番号
S-05

縮尺
A1-1:100
A3-1:200

図面番号
S-05

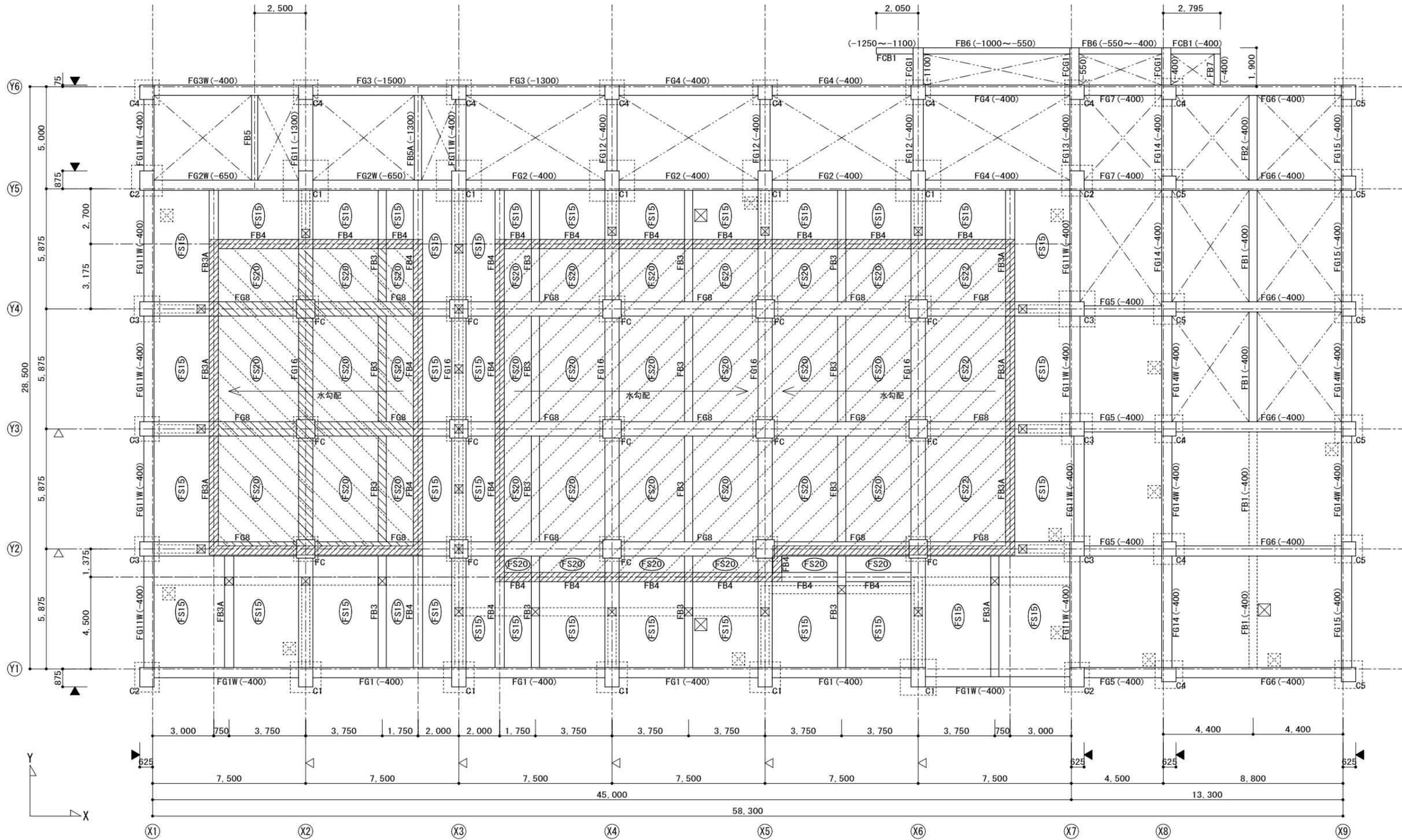
電機



特記外は下記による

- △ 柱芯を示す
- ▲ 柱面を示す
- ⊠ 束柱400x400
- 基礎梁天端 1FL-1450
- ()は1FLからの梁天端を示す
- ▨ 梁上打増し (FB4, FB3A)
- 25m槽 335~535 15m槽 735~835
- ▩ 梁上打増し 400

- フル壁ピット底 1FL-1900 t=150 上打増 50
- 25m槽 1FL-1200~-1000 t=200
- 15m槽 1FL-800~-700 t=200
- 一般配管ピット底 1FL-1600 t=100 防湿コン
- ワイヤメッシュ 6φ-100x100
- 埋戻し範囲を示す
- 釜場600x600
- 床下点検口600x600

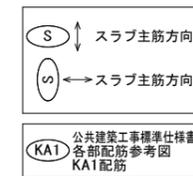


ピット基礎梁伏図 S=1/100
(見下げ図)

阿賀野市

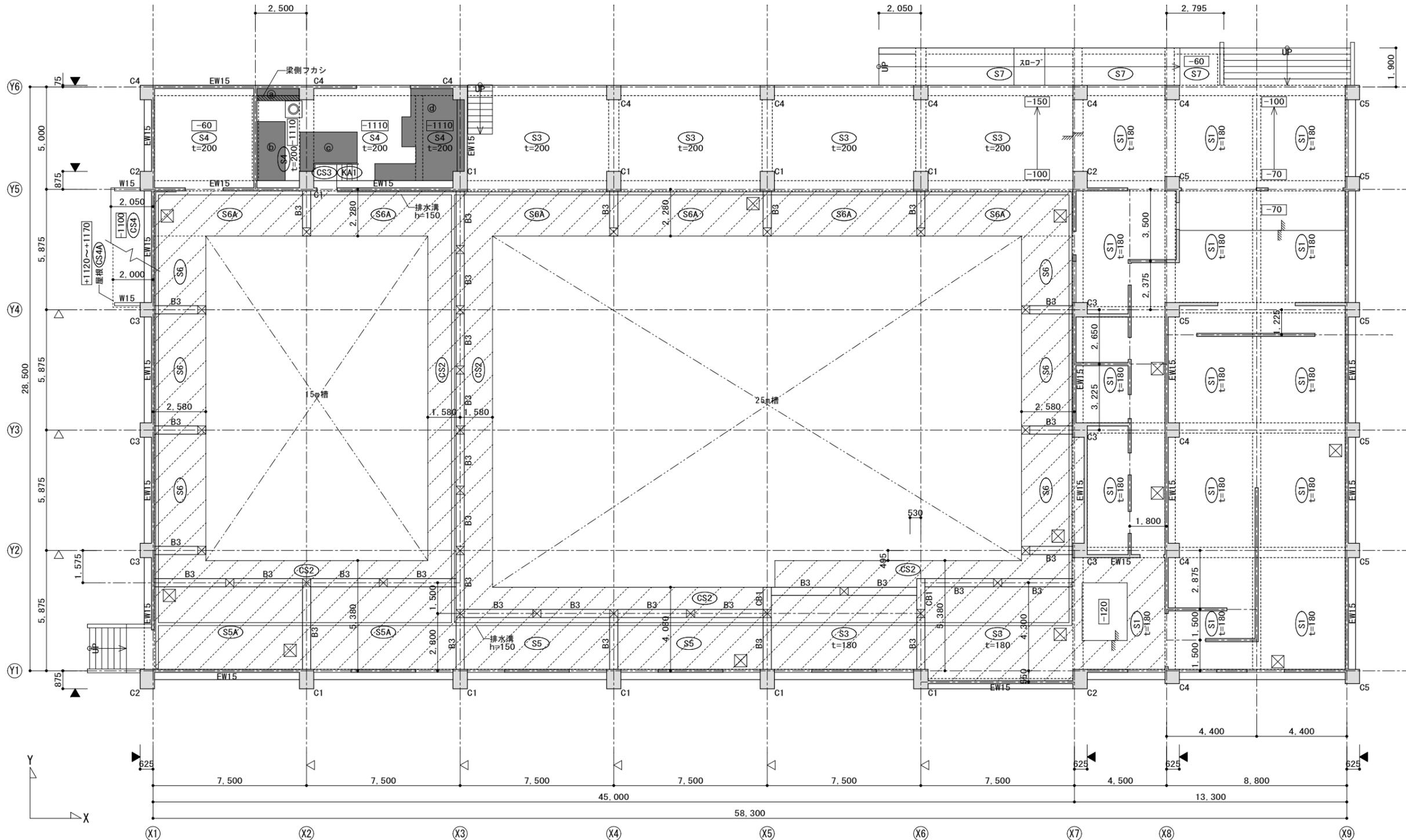
工事名称
学校屋内プール整備工事(建築)
図面名称
ピット基礎梁伏図

区分
実施設計
図面番号
S-06
縮尺
A1-1:100
A3-1:200
電機



特記以外は下記による
 △ 柱芯を示す
 ◀ 柱面を示す
 ⊠ 束柱400x400
 設計GL 1FL-1200
 基礎梁天端 1FL-400
 小梁天端 1FL-220 (B3, CB1)
 ()は1FLからの梁天端を示す
 壁 W15

スラブ 1FL-10 t=150
 □内は1FLからのスラブ天端を示す
 ▨ スラブ段差を示す
 ▨ プールサイド
 1FL-50 t=150 上打増 30~50
 ⊠ 床下点検口600x600
 ■ 機械基礎を示す



1階床伏図 S=1/100
 (見下げ図)

阿賀野市

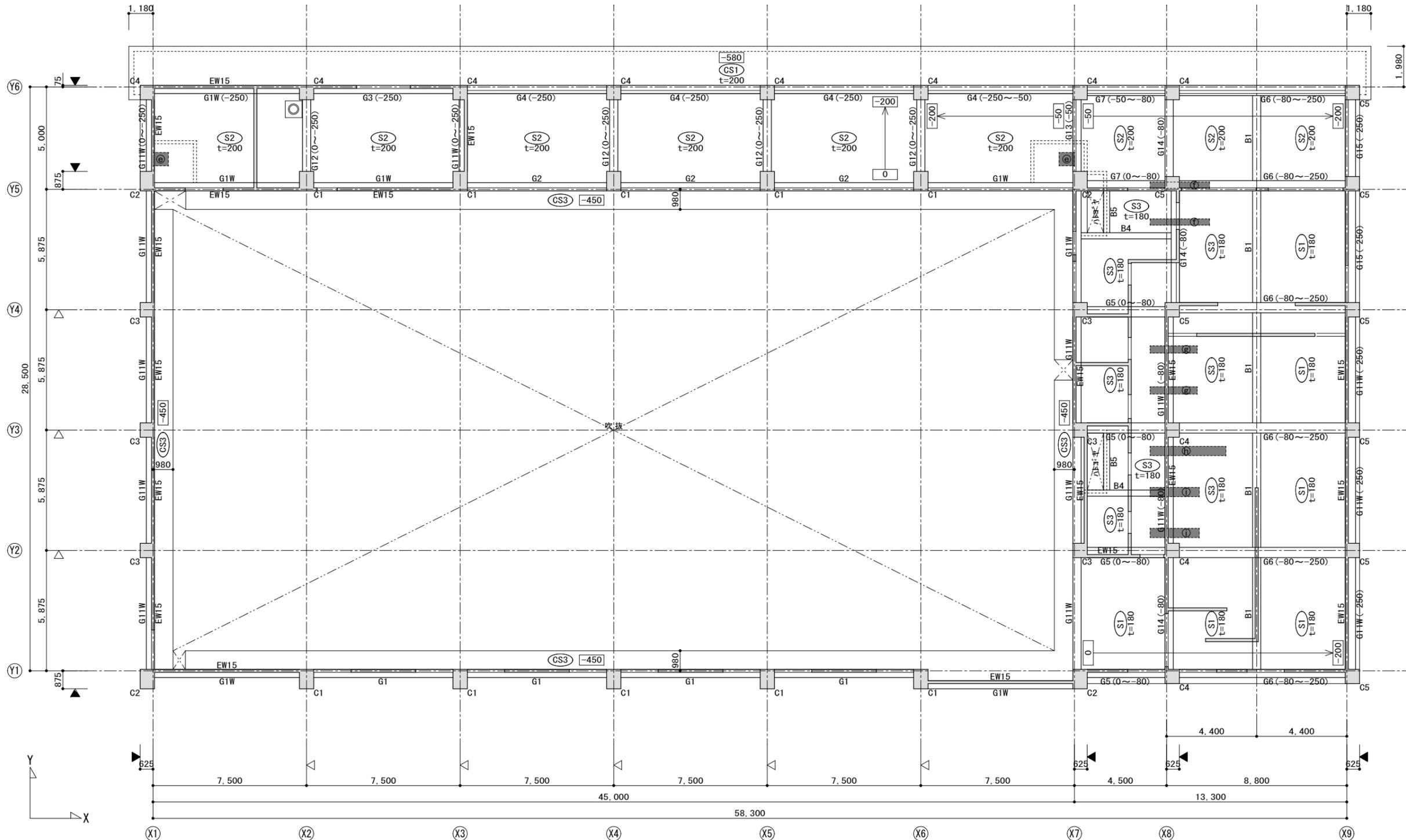
| | | |
|-------------------------|----------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-07 |
| 図面名称 1階床伏図 | 縮尺 A1-1:100 A3-1:200 | 窓 電 機 |



特記外は下記による

- △ 柱芯を示す
- ◀ 柱面を示す
- 梁天端 R1SL ±0
- () はR1SLからの梁天端を示す
- 壁 W15
- スラブ t=150
- 内はR1SLからのスラブ天端を示す

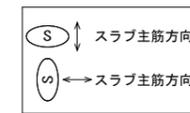
パラペット t=150 h=R1SL+550
機械基礎を示す



R1SL床梁伏図 S=1/100
(見上げ図)

阿賀野市

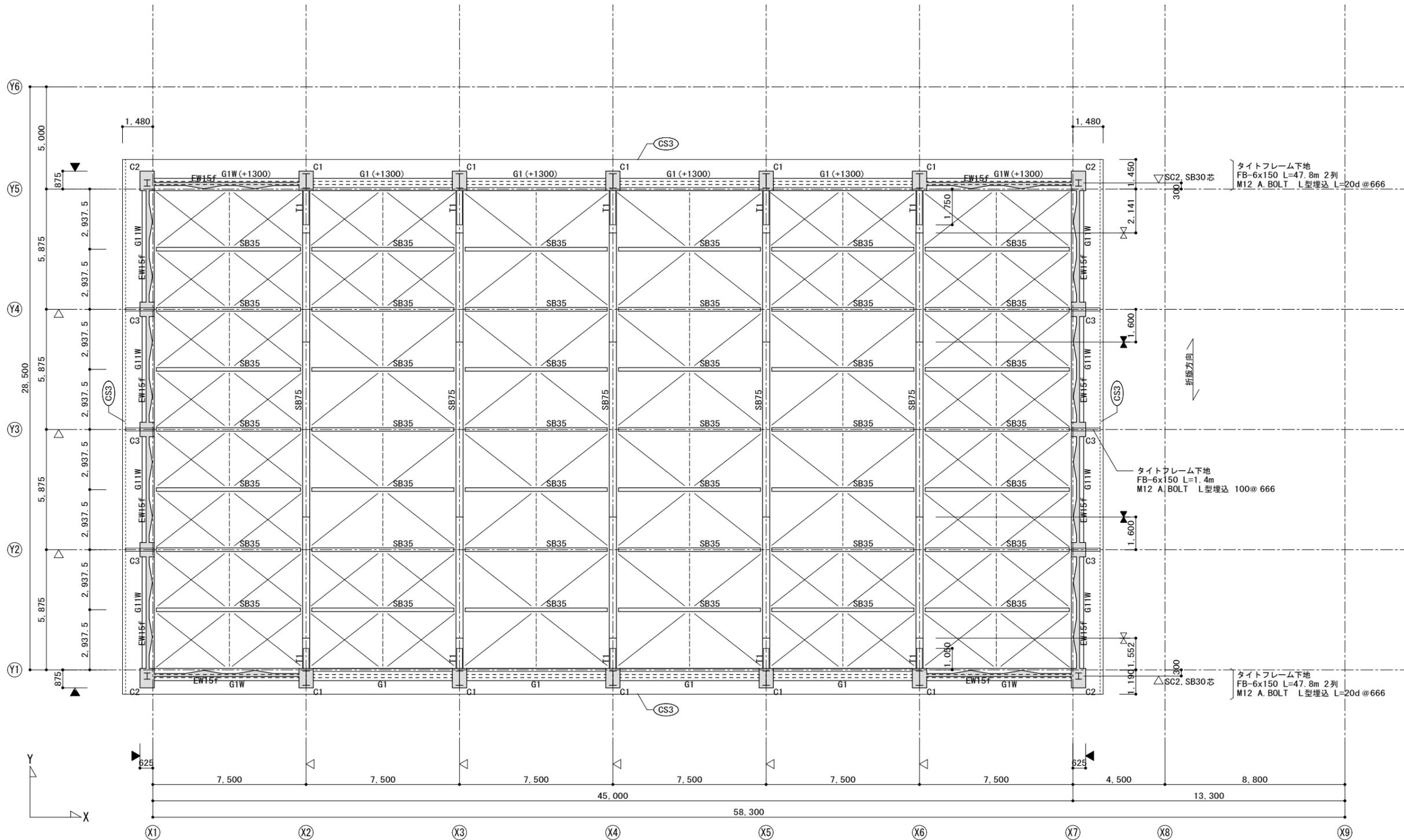
| | | |
|-------------------------|----------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-08 |
| 図面名称 R1SL床梁伏図 | 縮尺 A1-1:100 A3-1:200 | 電機 |



特記以外は下記による

- △ 柱芯を示す
- ◀ 柱面を示す
- 梁天端 R2SL±0
- ()はR2SLからの梁天端を示す
- スラブ t=150
- パラペット t=150 h=250
- 屋根形状は意匠図による

- 鉄骨梁天端 水卜基点R2SL-30, Y1+75
- 水卜基点R2SL+1164, Y5±0
- SB35天端は折板に合わせて上げる
- ピンジョイント位置を示す
- 剛接合ジョイント位置を示す
- b1
- SH1



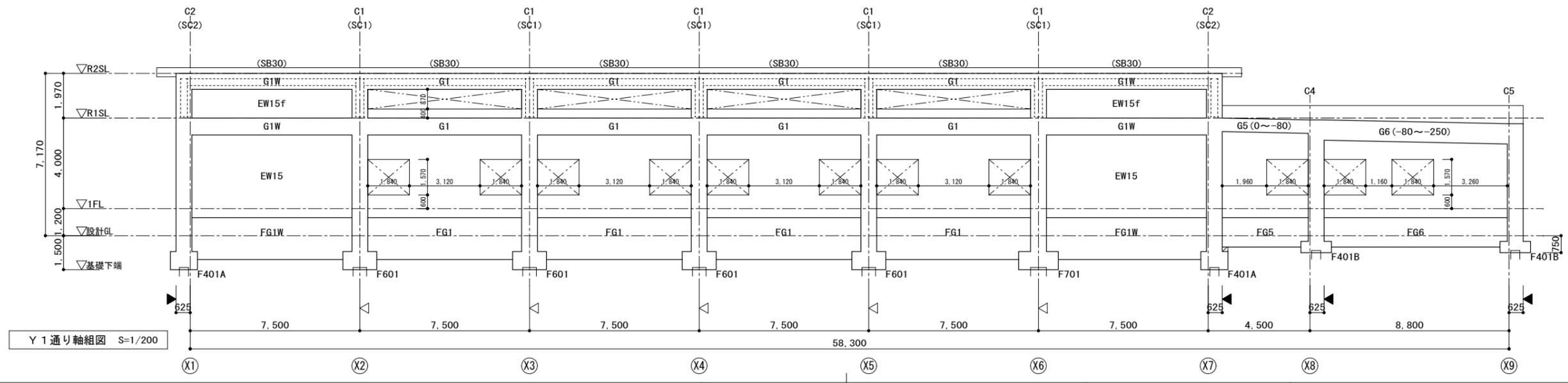
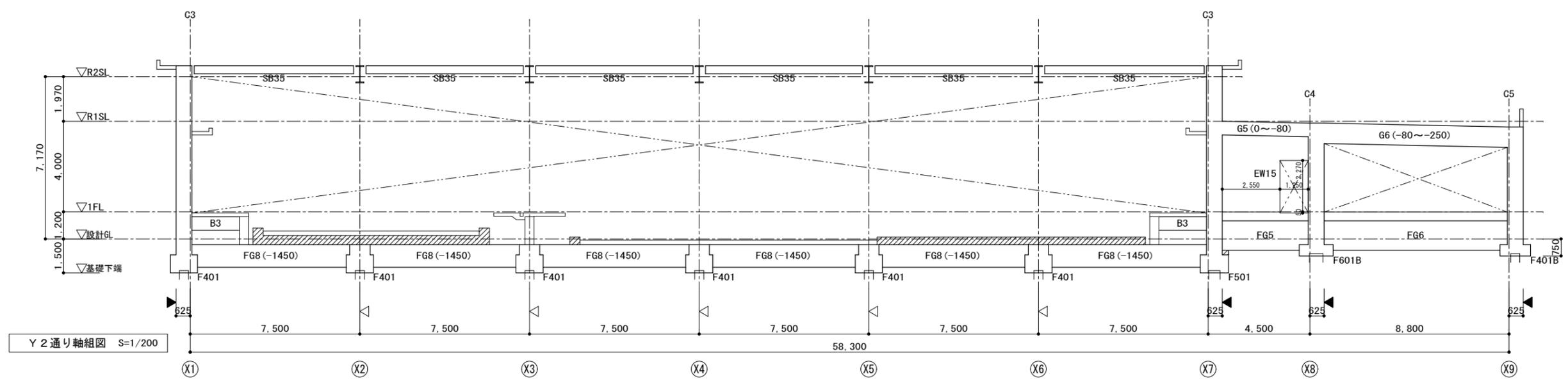
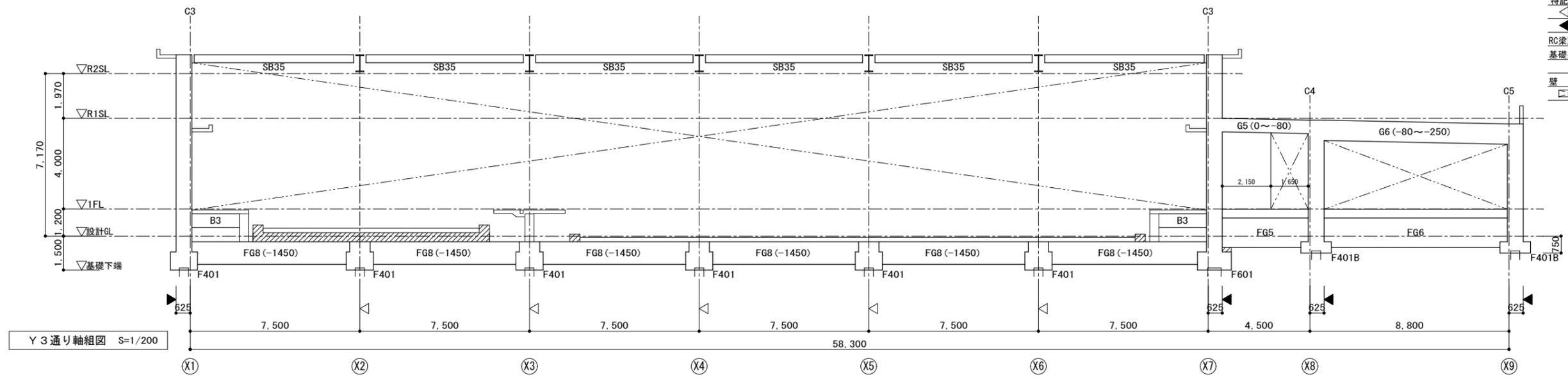
屋根伏図 S=1/100
(見上げ図)

阿賀野市

| | | |
|-------------------------|------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-09 |
| 図面名称 屋根伏図 | 縮尺 A1- 1:100 A3- 1:200 | 電機 |

特記外は下記による

- ◁ 柱芯を示す
- ◁ 柱面を示す
- RC梁天端 SL±0
- 基礎梁天端 1FL-400
- ()はFLからの梁天端を示す
- 壁 W15
- ◁ 開口を示す

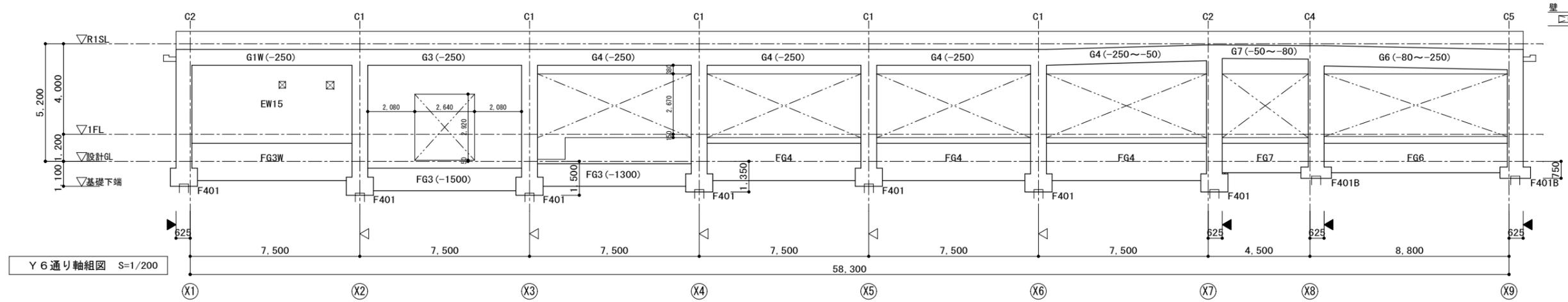


阿 賀 野 市

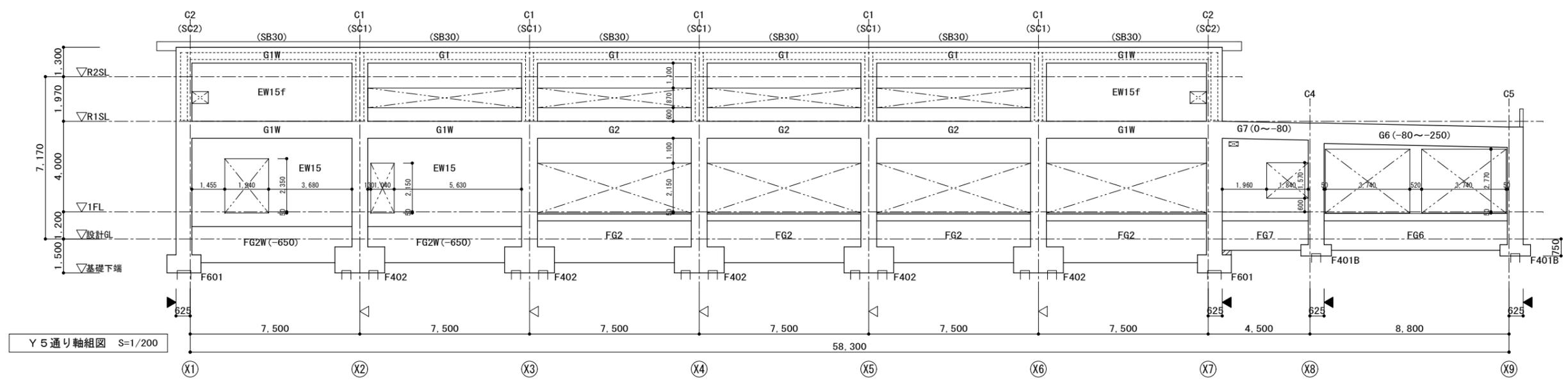
| | | |
|-------------------------|----------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-10 |
| 図面名称 軸組図（1） | 縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200 | 意 電 |

特記外は下記による

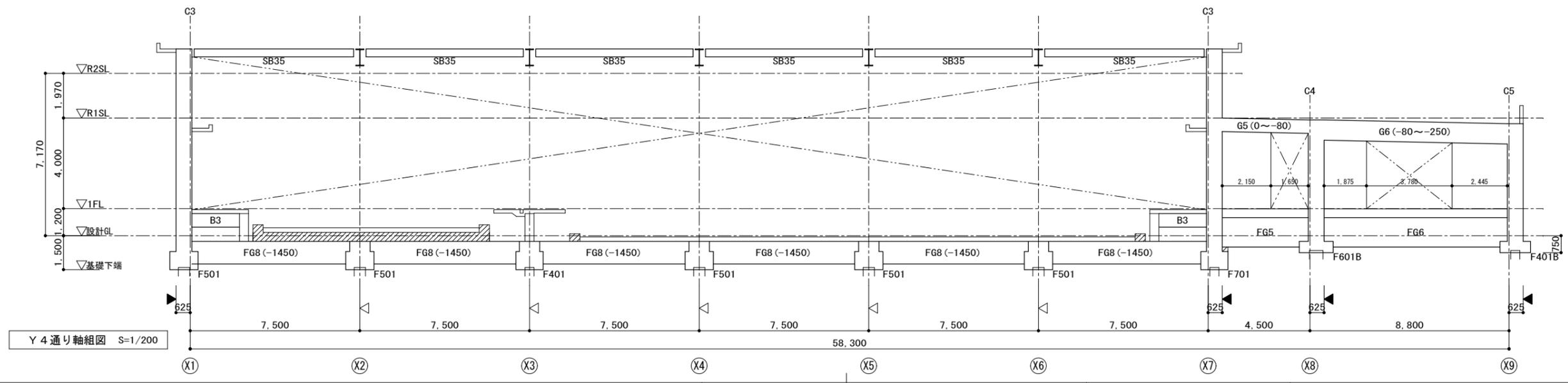
- ◀ 柱芯を示す
- ◀ 柱面を示す
- RC梁天端 SL±0
- 基礎梁天端 1FL-400
- ()はFLからの梁天端を示す
- 壁 W15
- ◀ 開口を示す



Y 6通り軸組図 S=1/200



Y 5通り軸組図 S=1/200



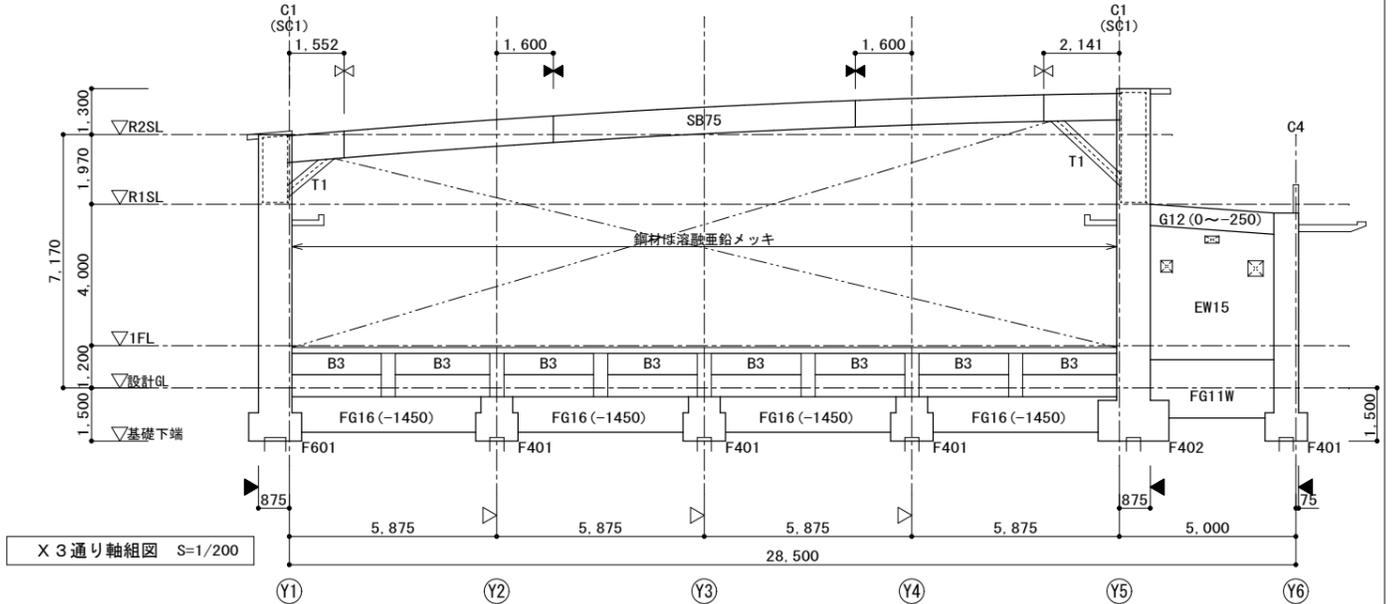
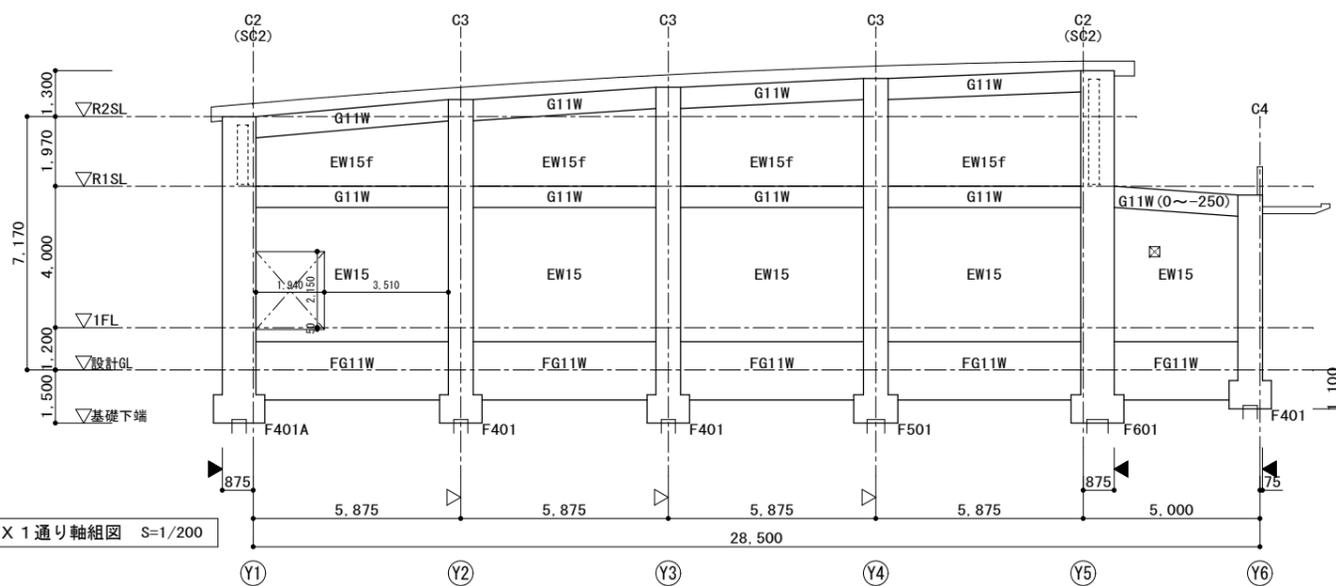
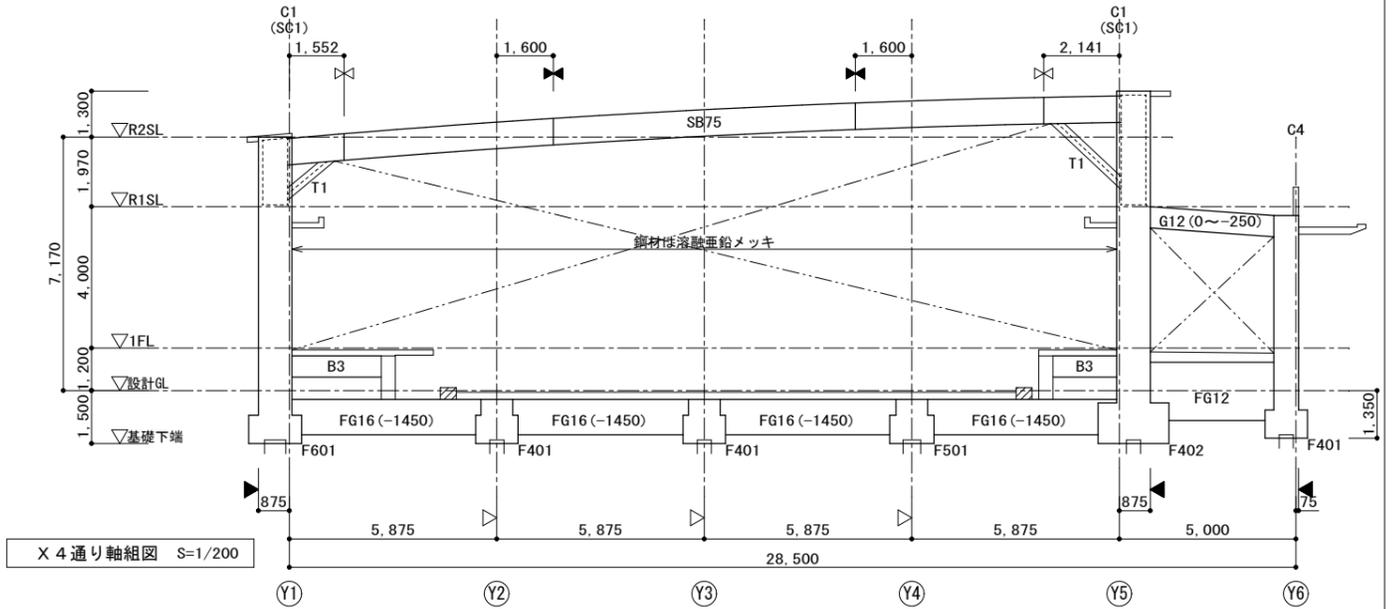
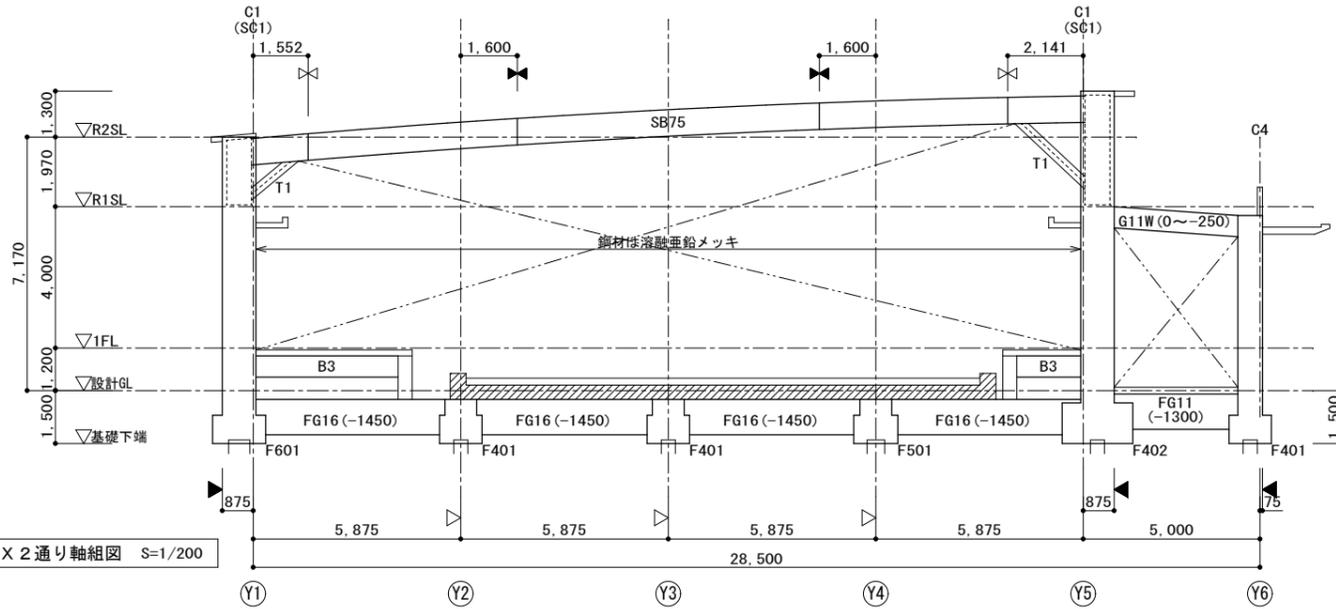
Y 4通り軸組図 S=1/200

阿 賀 野 市

| | | |
|-------------------------|----------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-11 |
| 図面名称 軸組図（2） | 縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200 | 窓 (機) 電 機 |

- 特記は下記による
- △ 柱芯を示す
 - ◀ 柱面を示す
 - RC梁天端 SL±0
 - 基礎梁天端 1FL-400
 - ()はFLからの梁天端を示す
 - ⊠ ピンジョイント位置を示す
 - ◀▶ 剛接合ジョイント位置を示す
 - 壁 W15
 - ◻ 開口を示す

SB75はR328.6mで高周波曲げ加工を行い、さらに中央部を40mmむくり加工とする

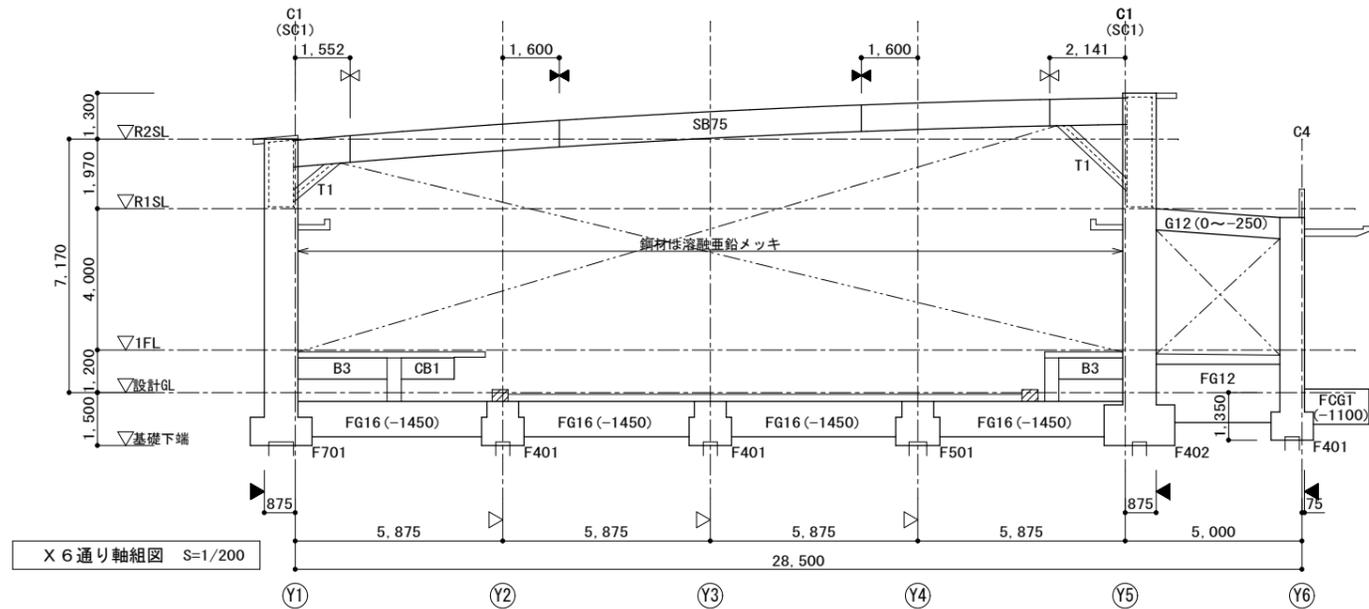


阿賀野市

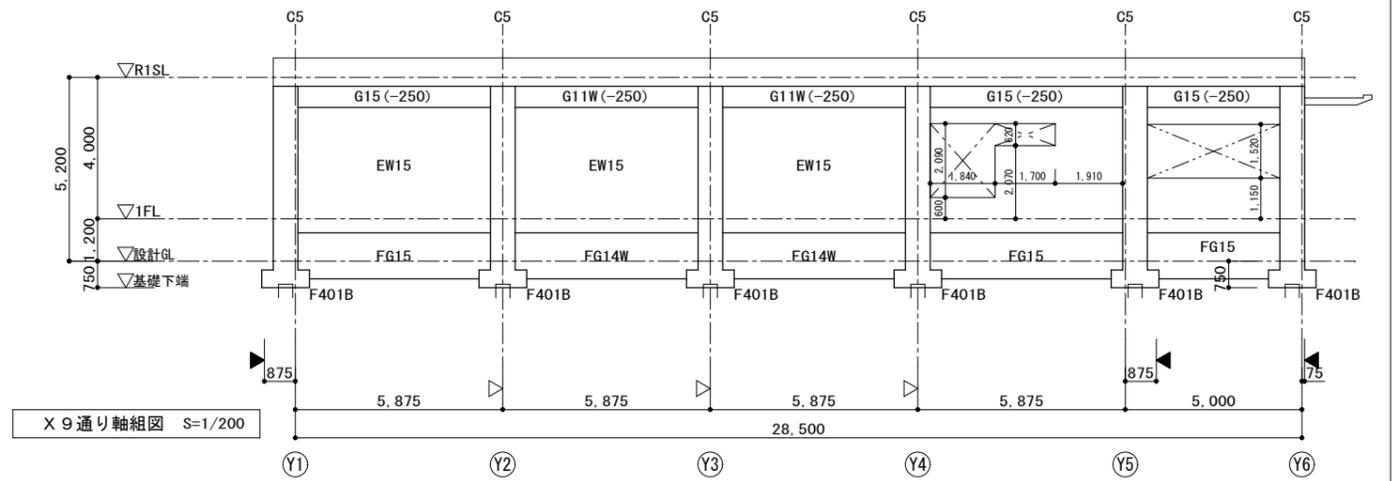
| | | |
|-------------------------|----------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-12 |
| 図面名称 軸組図（3） | 縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200 | 意 電 |

- 特記は下記による
- 柱芯を示す
 - 柱面を示す
 - RC梁天端 SL±0
 - 基礎梁天端 1FL-400
 - ()はFLからの梁天端を示す
 - ピンジョイント位置を示す
 - 剛接合ジョイント位置を示す
 - 壁 W15
 - 開口を示す

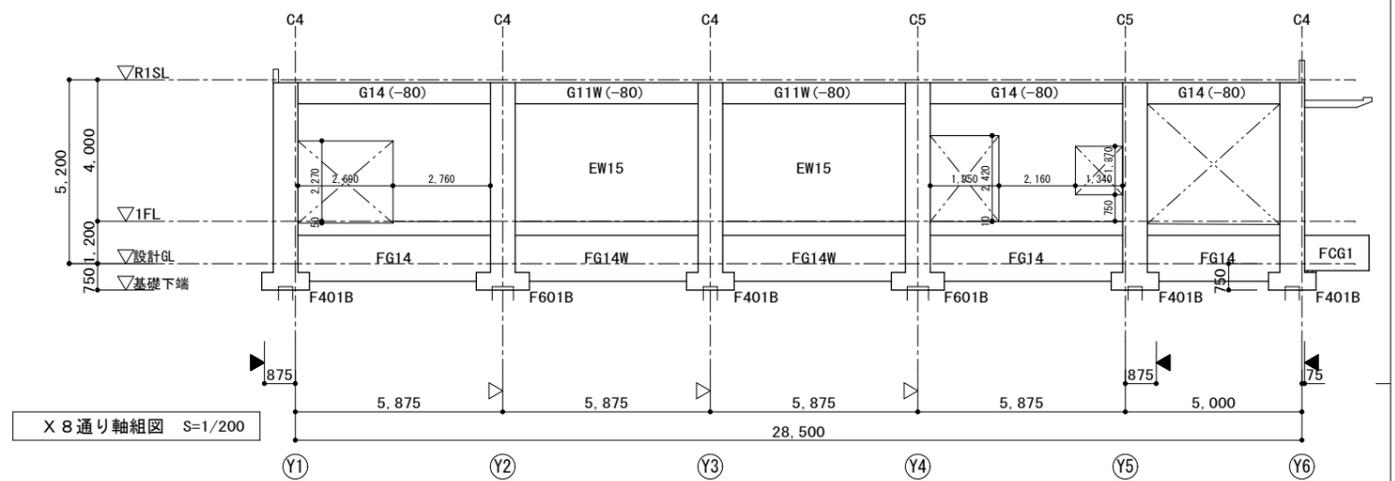
SB75はR328.6mで高周波曲げ加工を行い、さらに中央部を40mmむくり加工とする



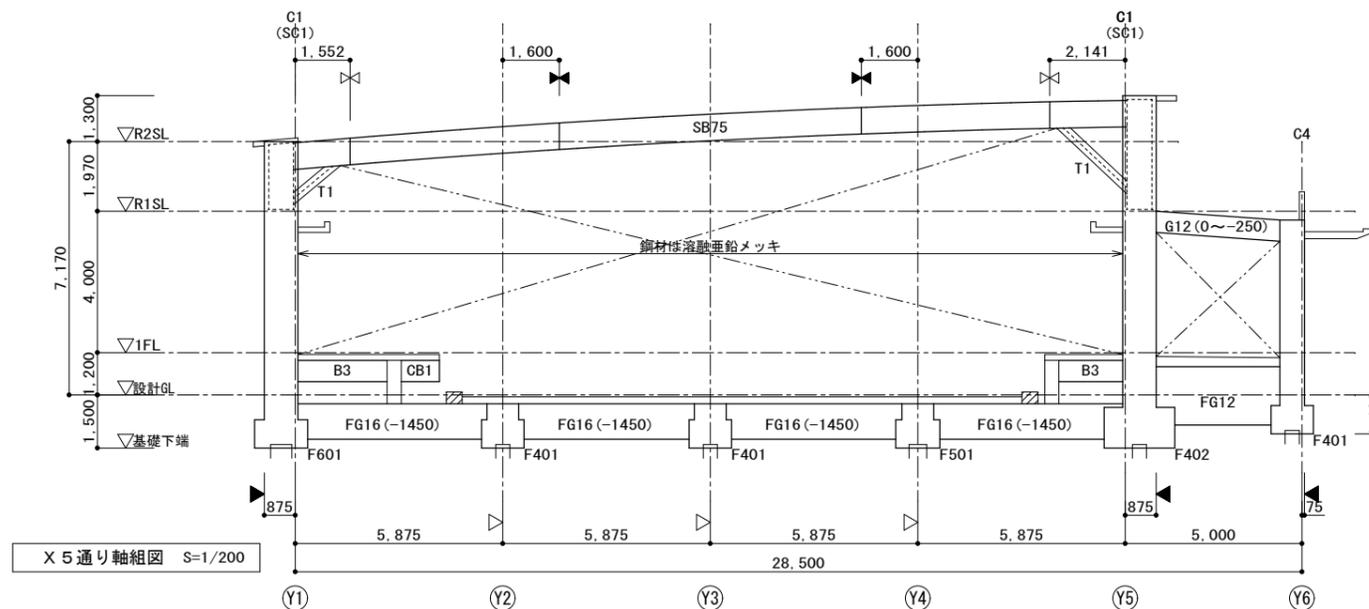
X 6 通り軸組図 S=1/200



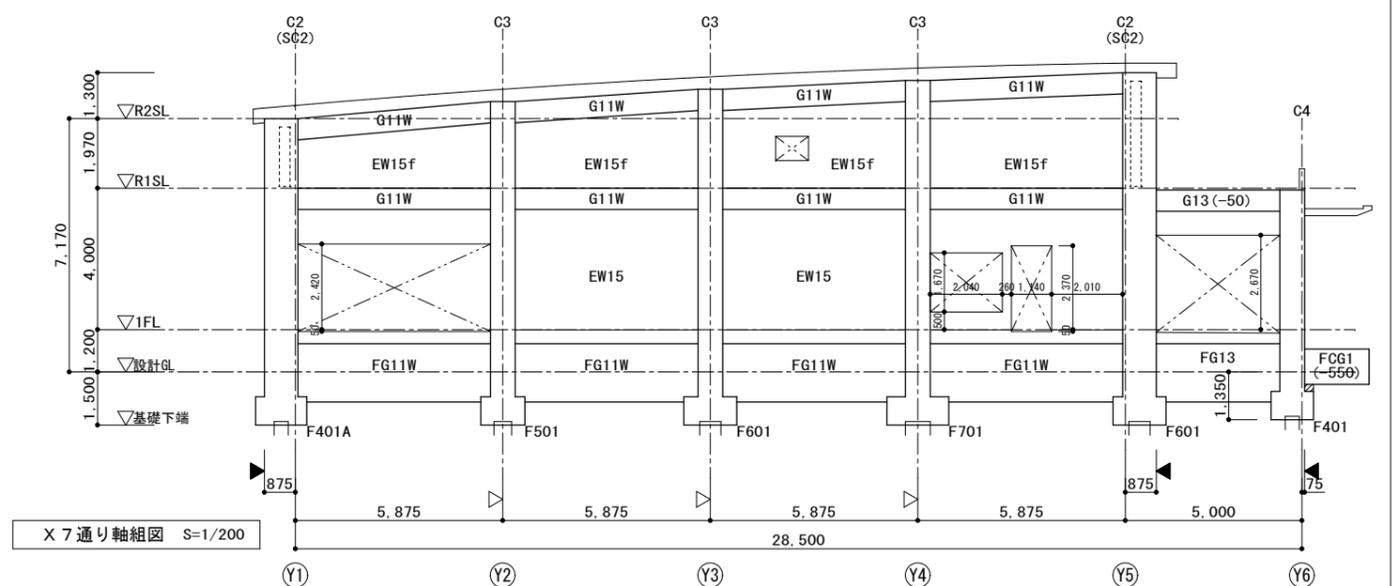
X 9 通り軸組図 S=1/200



X 8 通り軸組図 S=1/200



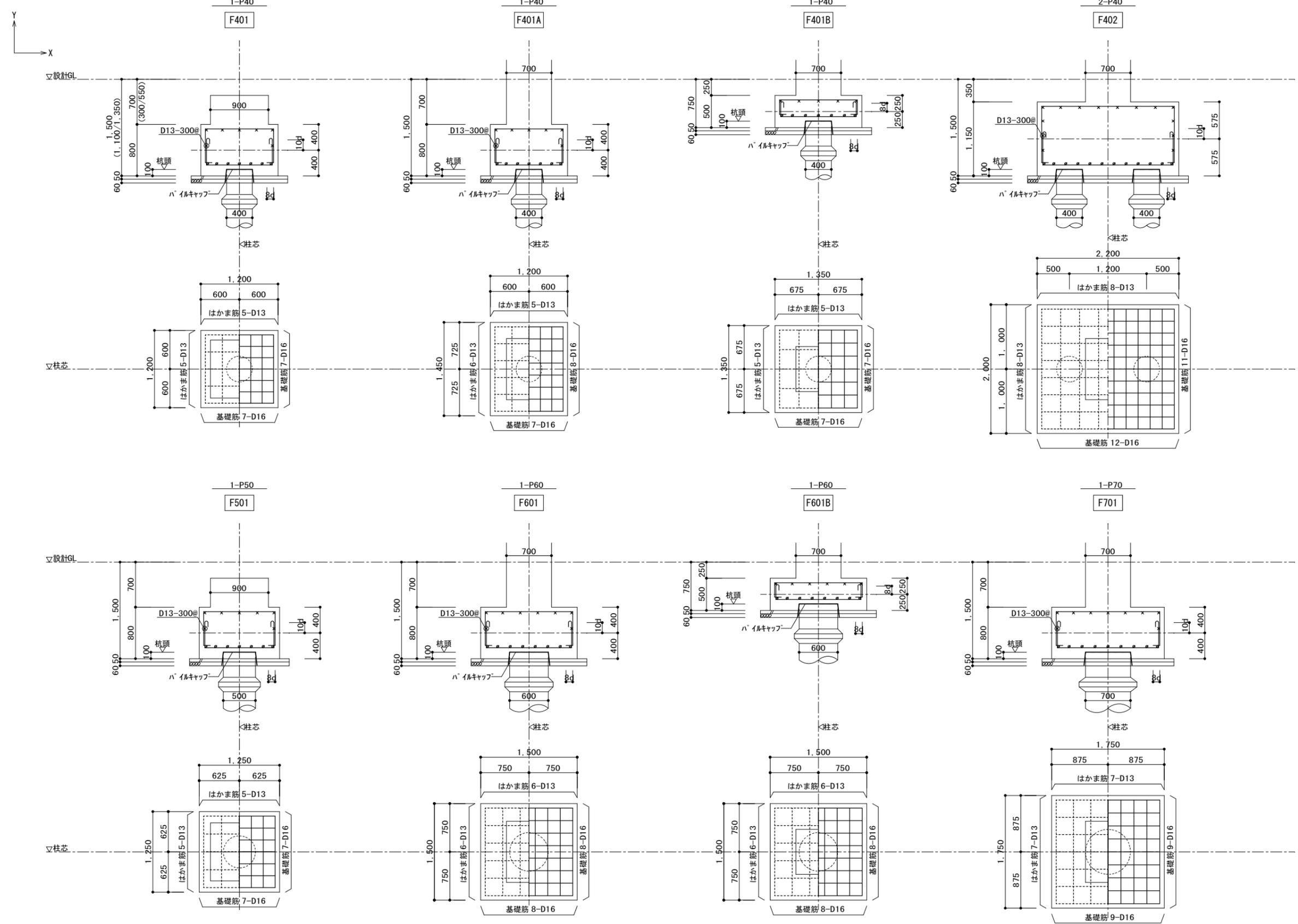
X 5 通り軸組図 S=1/200



X 7 通り軸組図 S=1/200

阿賀野市

| | | |
|-------------------------|----------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-13 |
| 図面名称 軸組図（4） | 縮尺 A1- 1 : 100 A3- 1 : 200 | 窓 電 機 |



阿賀野市

| | | |
|-------------------------|----------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-14 |
| 図面名称 基礎リスト | 縮尺 A1- 1:30 A3- 1:60 | 電機 |

基礎大梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-□-900@程度とする

| 符号 | FG1 | FG1W | FG2 | FG2W | FG3 | FG3W | FG4 | FG5 | FG6 | | FG7 |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|------------|
| 位置 | 全断 | 内端・中央 | 外端 | 全断 |
| 断面 | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 5-D25 | 9-D25 | 7-D25 | 6-D25 | 7-D25 |
| 下端筋 | 5-D25 | 5-D25 | 5-D25 |
| STP | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@150 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@150 | D13-□-@200 | | D13-□-@150 |
| 腹筋 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 2-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 4-D13 | 4-D13 | | 4-D13 |

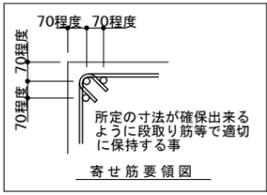
| 符号 | FG8 | FG11 | FG11W | FG12 | FG13 | FG14 | FG14W | FG15 | FG16 | FCG1 |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 位置 | 全断 | 他端・中央 |
| 断面 | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 12-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 5-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 14-D25 | 5-D25 |
| 下端筋 | 12-D25 | 4-D25 | 12-D25 | 5-D25 |
| STP | D13-□-@150 | D13-□-@150 | D13-□-@200 | D13-□-@150 | D13-□-@150 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@150 | D13-□-@200 |
| 腹筋 | 2-D13 | 2-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 6-D13 | 4-D13 | 4-D13 | 4-D13 | 2-D13 | 2-D13 |

基礎小梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-□-900@程度とする

| 符号 | FB1 | | | FB2 | | FB3 | | | FB3A | FB4 | FB5 | FB5A | | FB6 | FB7 | FCB1 |
|-----|------------|-------|-------|------------|-------|------------|-------|-------|------------|------------|------------|------------|-------|------------|------------|------------|
| 位置 | 外端 | 中央 | 内端 | 両端・中央 | 内端 | 外端 | 中央 | 内端 | 全断 | 全断 | 全断 | 両端・中央 | 内端 | 全断 | 全断 | 全断 |
| 断面 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 7-D25 | 4-D25 | 7-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 7-D25 | 4-D25 | 4-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 3-D22 |
| 下端筋 | 4-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D22 | 3-D22 | 3-D22 | 6-D22 | 3-D22 | 3-D19 | 3-D22 |
| STP | D13-□-@150 | | | D13-□-@150 | | D13-□-@150 | | | D13-□-@150 | D13-□-@150 | D13-□-@200 | D13-□-@200 | | D10-□-@200 | D10-□-@200 | D10-□-@200 |
| 腹筋 | 2-D10 | | | 2-D10 | | 2-D10 | | | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 | | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 |

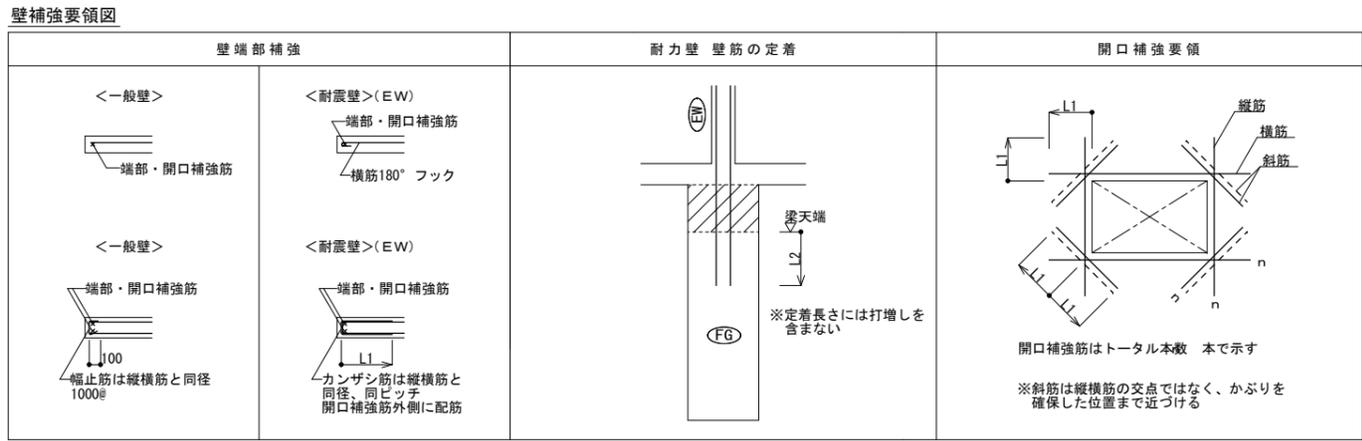
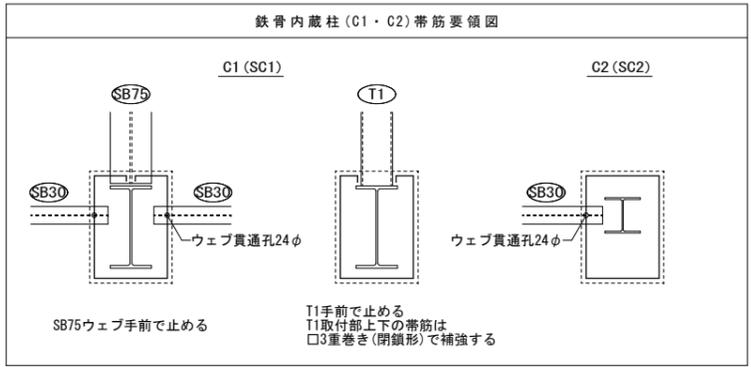
| 柱リスト 1:60 | | 柱梁接合部内H00Pは100@とする。(中子無し) ()は寄せ筋とする。 鉄骨貫通STPIはフレア溶接とする(片面10d以上、両面5d以上) | | | | | |
|-----------|----------|--|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 階 | 符号 | C1 | C2 | C3 | C4 | C5 | 東柱 |
| R1SL | 断面 | SC1内蔵 | SC2内蔵 | | | | |
| | 主筋 帯筋 | 18-D29 D13-□-@100 | 16-D25 D13-□-@100 | 16-D25 D13-□-@100 | | | |
| 1SL | 断面 | | | | | | |
| | 主筋 帯筋 | 24-D29 D13-□-@100 | 16-D25 D13-□-@100 | 16-D25 D13-□-@100 | 16-D25 D13-□-@100 | 22-D25 D13-□-@100 | 8-D16 D10-□-@150 |

| 柱型リスト 1:60 | |
|------------|------------------|
| 符号 | FC |
| 断面 | |
| 主筋 | 16-D25 (四隅フック付き) |
| 帯筋 | D13-□-@100 |
| T.H00P | 2-□-D13 |



| 壁リスト 1:60 水平切断面を示す。継手長さはL1とする。 | | | |
|--------------------------------|---------------|---------------|----------------|
| 符号 | W15 | EW15 | EW15f |
| 水平断面 | | | |
| 縦筋 | D10-100@ シングル | D10-100@ シングル | D10-100@ シングル |
| 横筋 | D10-100@ シングル | D10-100@ シングル | D10-100@ シングル※ |
| 開口部 | 縦筋 1-D13 | 縦筋 1-D13 | 縦筋 1-D13 |
| 端部 | 横筋 1-D13 | 横筋 1-D13 | 横筋 1-D13 |
| 幅止筋 | 1-D13 | 1-D13 | 1-D13 |

※SC1, SC2のウェブ手前で立上げアンカー
SC2フランジにはスタッド溶接とする。



阿賀野市

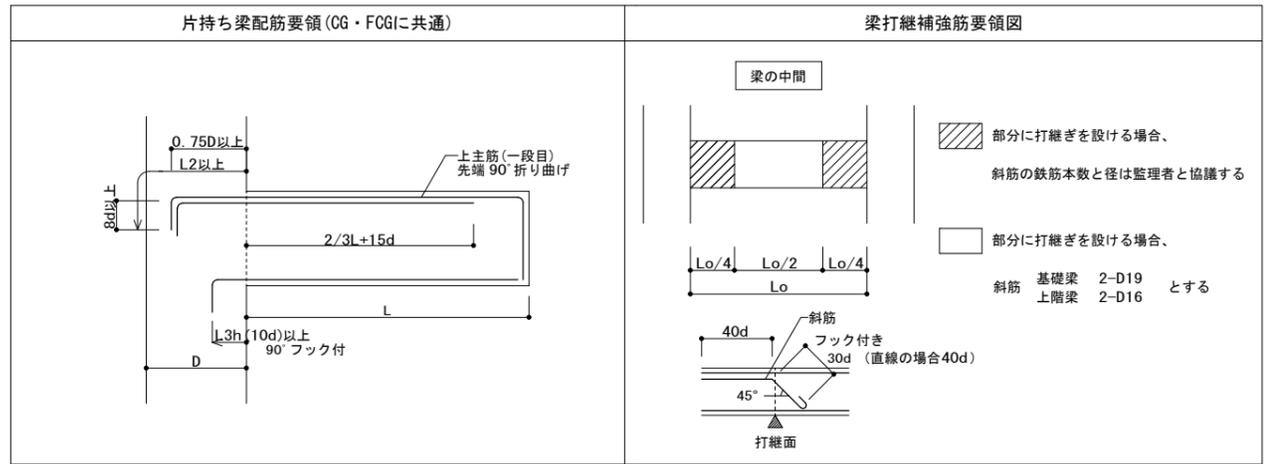
| | | |
|-------------------------|--------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事(建築) | 区分 実施設計 | 図面番号 S-16 |
| 図面名称 柱・壁リスト | 縮尺 A1-1:30 A3-1:60 | 電機 |

大梁リスト 1:60

幅止め筋はD10- \square -1000程度とする 鉄骨貫通STPはフレア溶接とする(片面10d以上、両面5d以上)

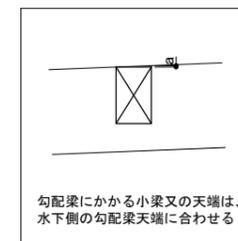
| 階 | 符号 | G1 | G1W | G2 | | G3 | G4 | | G5 | | G6 | | | G7 |
|------|-------|----------------------|----------------------|----------------------|-------|----------------------|----------------------|-------|----------------------|--------|----------------------|-------|----------------------|----------------------|
| R2SL | 位置 | 全断 | 全断 | | | | | | | | | | | |
| | 断面 | | | | | | | | | | | | | |
| | 上端筋 | 3-D25 | 3-D25 | | | | | | | | | | | |
| | 下端筋 | 3-D25 | 3-D25 | | | | | | | | | | | |
| | STP | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 | | | | | | | | | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | 2-D10 | | | | | | | | | | | | |
| R1SL | 位置 | 全断 | 全断 | 両端 | 中央 | 全断 | 両端 | 中央 | X7端 | 中央・X8端 | X8端 | 中央 | X9端 | 全断 |
| | 断面 | | | | | | | | | | | | | |
| | 上端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 5-D25 | 4-D25 | 6-D25 | 5-D25 | 4-D25 | 5-D25 | 8-D25 | 8-D25 | 8-D25 | 6-D25 | 5-D25 |
| | 下端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 5-D25 | 7-D25 | 5-D25 | 5-D25 |
| | STP | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 | | D13- \square -@150 | D13- \square -@200 | | D13- \square -@200 | | D13- \square -@200 | | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 |
| 腹筋 | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 | | 2-D10 | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | | 4-D10 | 2-D10 | |

| 階 | 符号 | G11W | G12 | | G13 | G14 | G15 |
|------|-------|----------------------|----------------------|-------|----------------------|----------------------|----------------------|
| R2SL | 位置 | 全断 | | | | | |
| | 断面 | | | | | | |
| | 上端筋 | 3-D25 | | | | | |
| | 下端筋 | 3-D25 | | | | | |
| | STP | D13- \square -@200 | | | | | |
| 腹筋 | 2-D10 | | | | | | |
| R1SL | 位置 | 全断 | Y5端・中央 | 右端 | 全断 | 全断 | 全断 |
| | 断面 | | | | | | |
| | 上端筋 | 4-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 5-D25 | 4-D25 |
| | 下端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 |
| | STP | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 | | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 | D13- \square -@200 |
| 腹筋 | 2-D10 | 2-D10 | | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 | |



小梁リスト 1:60 幅止め筋はD10-□-900@程度とする

| 符号 | B1 | | | B2 | | B3 | | B4 | B5 | CB1 |
|-----|------------|-------|-------|------------|-------|------------|--------|------------|------------|------------|
| | 外端 | 中央 | 内端 | 両端・中央 | 内端 | 全断 | CB1連続端 | 全断 | 全断 | 全断 |
| 断面 | | | | | | | | | | |
| 上端筋 | 4-D25 | 4-D25 | 7-D25 | 4-D25 | 7-D25 | 3-D19 | 6-D19 | 3-D22 | 3-D19 | 6-D19 |
| 下端筋 | 4-D25 | 6-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 4-D25 | 3-D19 | 3-D19 | 3-D22 | 3-D19 | 3-D19 |
| STP | D13-□-@150 | | | D13-□-@150 | | D13-□-@200 | | D13-□-@200 | D13-□-@200 | D13-□-@200 |
| 腹筋 | 2-D10 | | | 2-D10 | | 2-D10 | | 2-D10 | 2-D10 | 2-D10 |



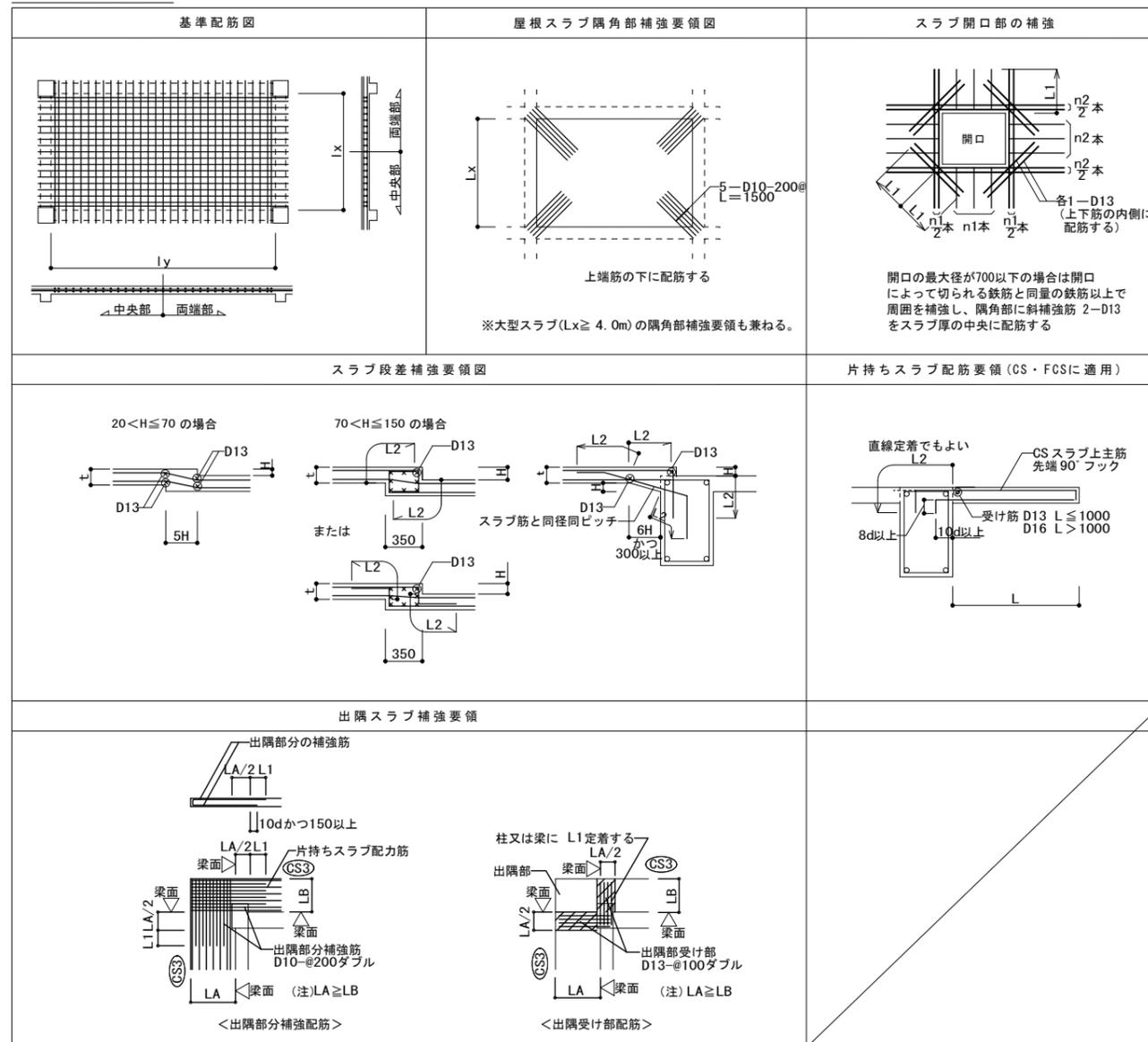
スラブリスト

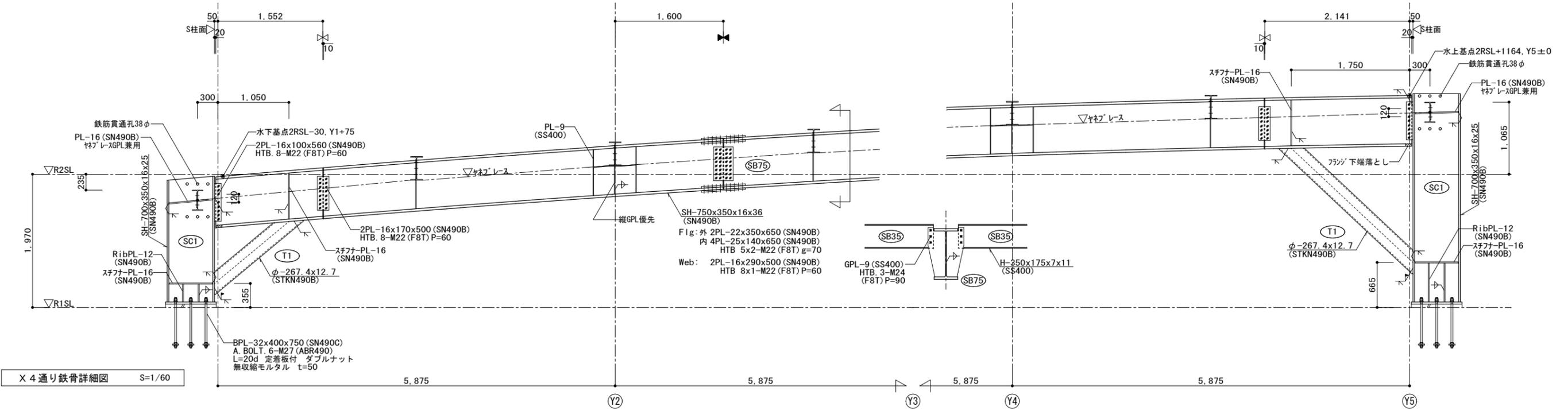
| 符号 | スラブ厚 (mm) | 位置 | 主筋 (短辺方向) | | 配筋筋 (長辺方向) | | 備考 |
|------|-----------|------------|------------------------------|--------|------------------------------|--------|-----------------|
| | | | 端部 | 中央 | 端部 | 中央 | |
| S1 | 180 | 上端筋 下端筋 | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | |
| S2 | 200 | 上端筋 下端筋 | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | |
| S3 | 180 | 上端筋 下端筋 | D13+D16-200@ D13-200@ | ← ← | D13+D16-200@ D13-200@ | ← ← | |
| S4 | 200 | 上端筋 下端筋 | D16-200@ D13-200@ | ← ← | D13+D16-200@ D13-200@ | ← ← | |
| S5 | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | ブルサイド |
| S5A | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-150@ D10+D13-150@ | ← ← | D10+D13-150@ D10+D13-150@ | ← ← | ブルサイド |
| S6 | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-100@ D10+D13-200@ | ← ← | D13-100@ D10+D13-200@ | ← ← | ブルサイド |
| S6A | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-100@ D10+D13-200@ | ← ← | D13-75@ D10+D13-150@ | ← ← | ブルサイド |
| S7 | 150 | 上端筋 下端筋 | D10+D13-200@ D10-200@ | ← ← | D10-200@ D10-200@ | ← ← | スロープ |
| CS1 | 200 | 上端筋 下端筋 | D13-100@ D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | 大庇 |
| CS2 | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-100@ D10+D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | ブルサイド |
| CS3 | 150 | 上端筋 下端筋 | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D10-200@ D10-200@ | ← ← | 屋根庇 キャットウォーク |
| CS4 | 200 | 上端筋 下端筋 | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | バルクタンク庫床 |
| CS4 | 150~200 | 上端筋 下端筋 | D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10+D13-200@ | ← ← | バルクタンク庫屋根 |
| FS15 | 150 | 上端筋 下端筋 | D10+D13-200@ D10-200@ | ← ← | D10+D13-200@ D10-200@ | ← ← | ブル点検ピット底盤 |
| FS20 | 200 | 上端筋 下端筋 | D13-150@ D13-150@ | ← ← | D13-150@ D13-150@ | ← ← | ブル水槽底盤 |
| FS22 | 220 | 上端筋 下端筋 | D13-150@ D13-150@ | ← ← | D13-150@ D13-150@ | ← ← | ブル水槽底盤 |

1階床下地業

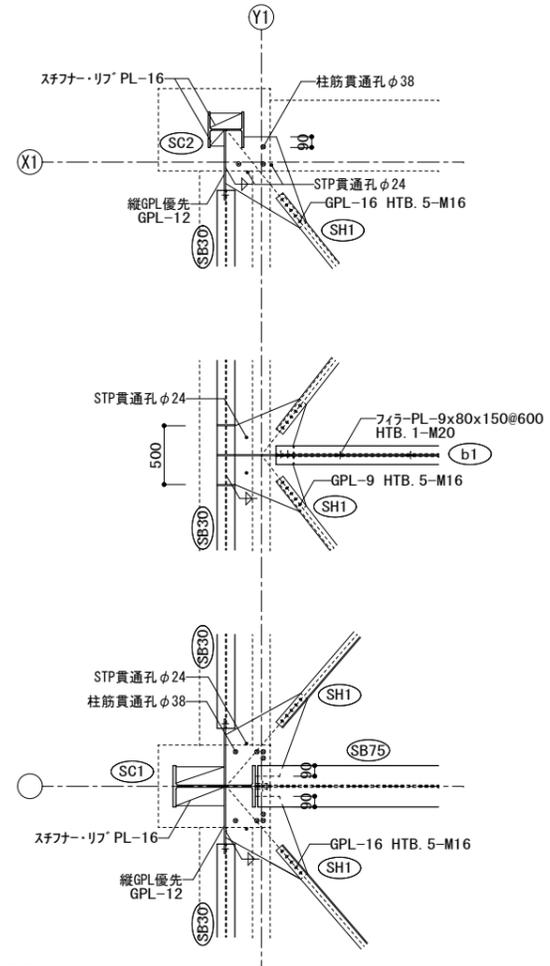
- スラブおよび底盤下部 : 捨てコン (厚50mm) + 砕石 (厚60mm)
- ブル水槽底盤下部 (FS20, FS22) : 砕石 (厚150mm)
- 防湿コンピット (t=100) : 捨てコン (厚50mm) + 砕石 (厚60mm)

スラブ補強要領図

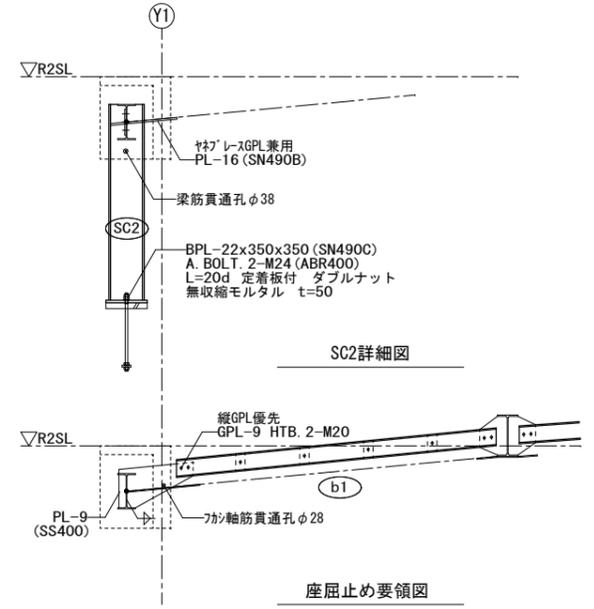




X 4 通り鉄骨詳細図 S=1/60



ブレース要領図



座屈止め要領図

ジョイントリスト 1/60 特記なき限り 材質: SN490B HTB. F8T

| 符号 | SB75 (ヒンジジョイント) | SB75 (剛接合) |
|------|---|---|
| 断面 | SH-750x350x16x36 | SH-750x350x16x36 |
| フランジ | HTB 5x2-M22 外 2PL-22x350x650 内 4PL-25x140x650 | HTB 5x2-M22 外 2PL-22x350x650 内 4PL-25x140x650 |
| ウェブ | HTB 8x1-M22 2PL-16x170x500 | HTB 8x1-M22 2PL-16x290x500 |
| 備考 | | |

S柱リスト 1/60 材質: リブプレート・スチフナー:母材同材質

| 符号 | SC1 | SC2 |
|---------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 断面 | SH-700x350x16x25 (SN490B) | SH-300x300x10x15 (SN400B) |
| 階 | R1SL | R1SL |
| 柱脚 | | |
| B. PL | BPL-32x400x750 (SN490C) | BPL-22x350x350 (SN490C) |
| Rib. PL | PL-12 H=355・H=665 | - |
| A. BOLT | 6-M27 L=20d (ABR490) 定着板付き ダブルナット | 2-M24 L=20d (ABR400) 定着板付き ダブルナット |
| 備考 | 無収縮モルタル t=50 | 無収縮モルタル t=50 |

躯体定着部 1/60

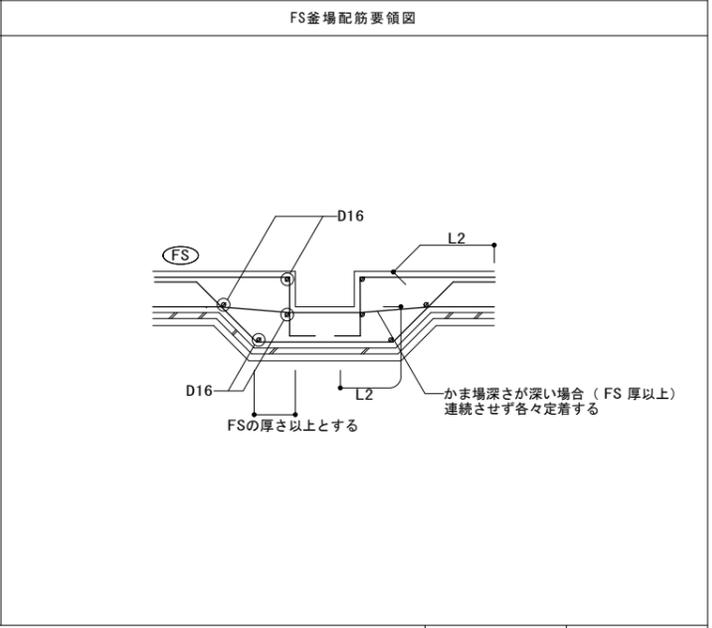
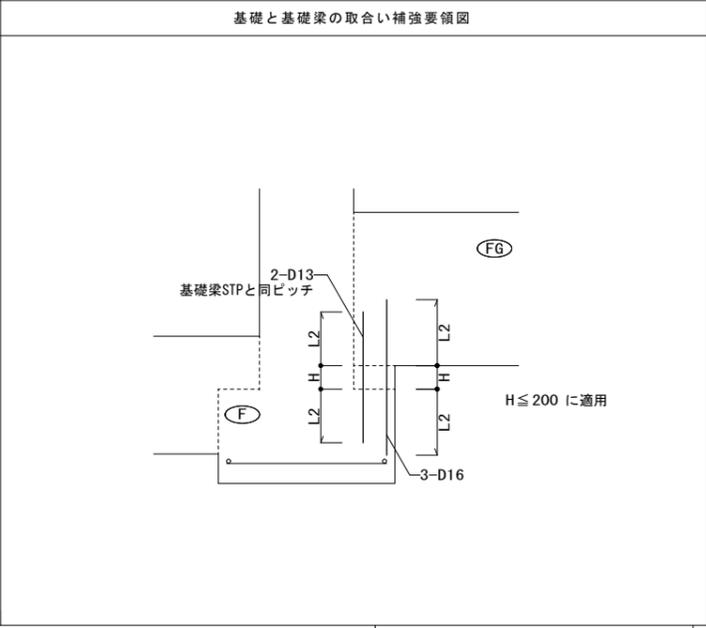
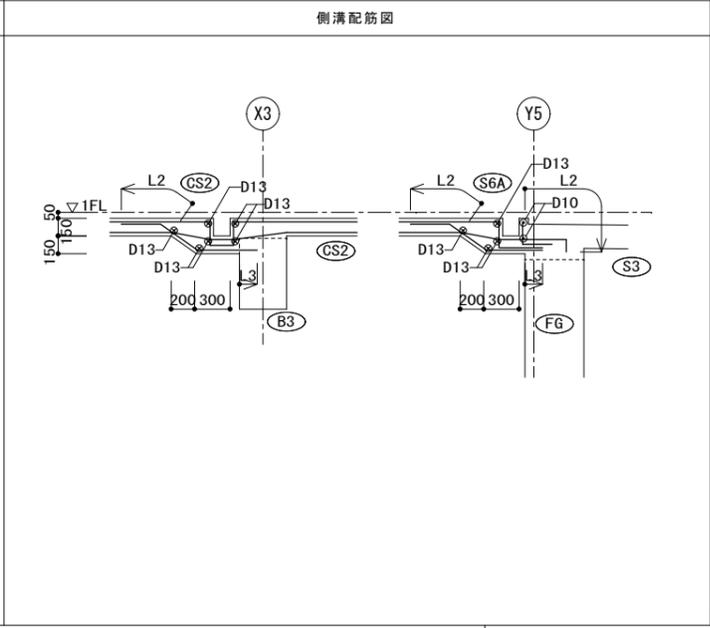
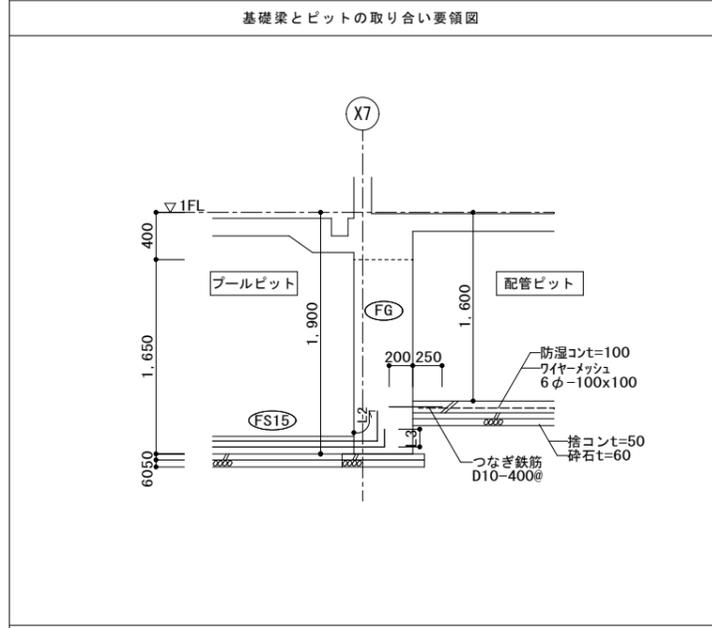
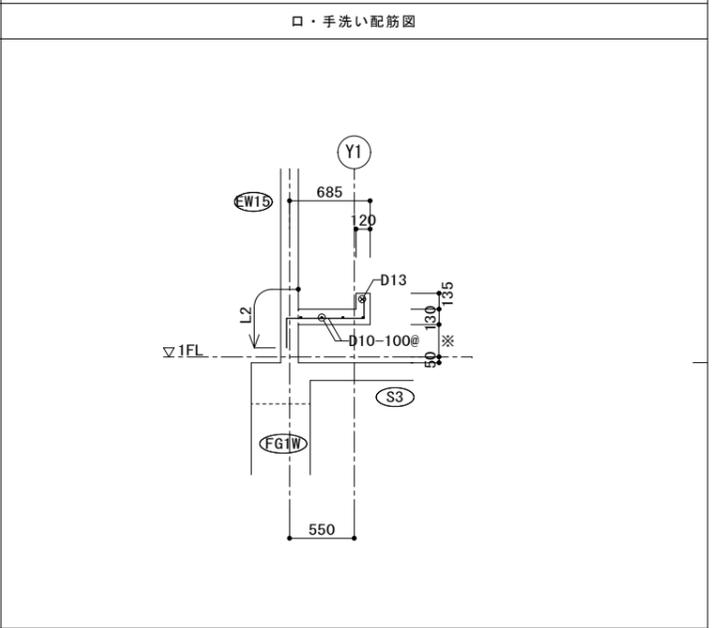
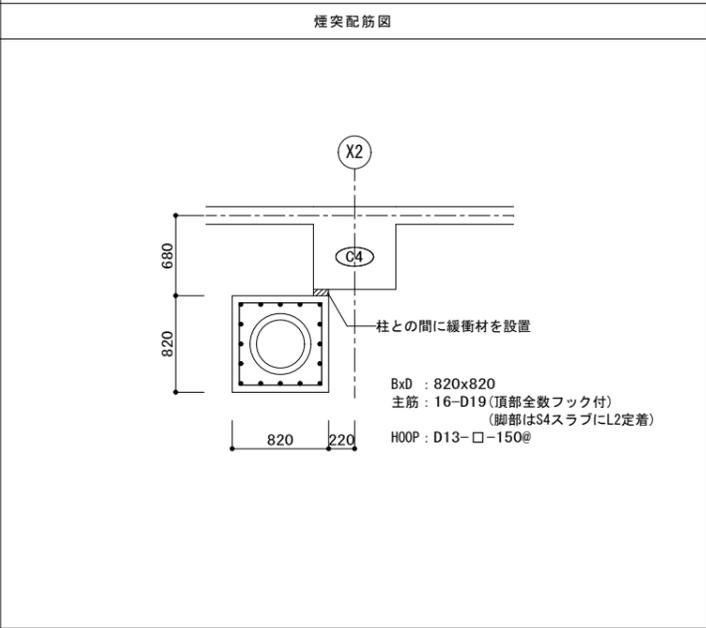
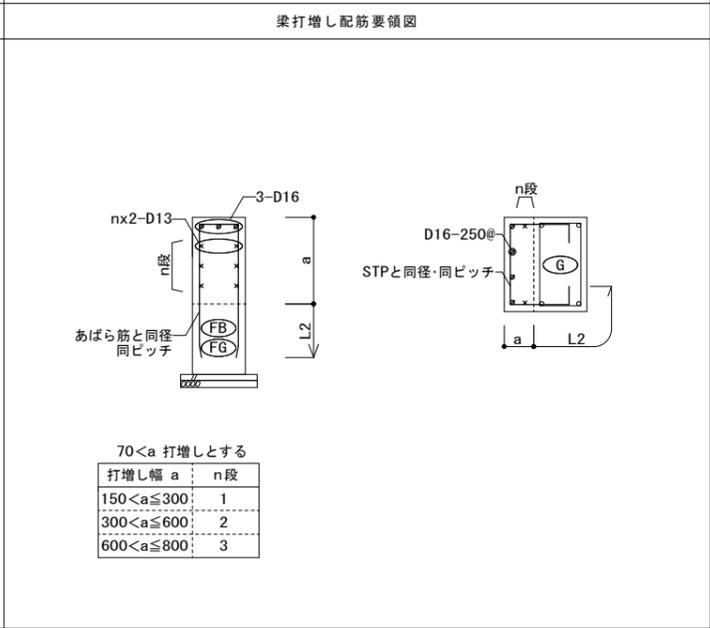
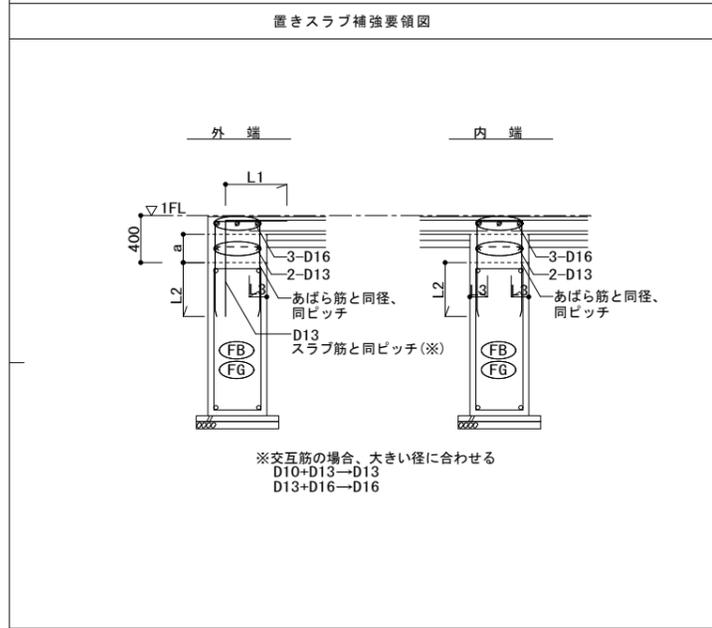
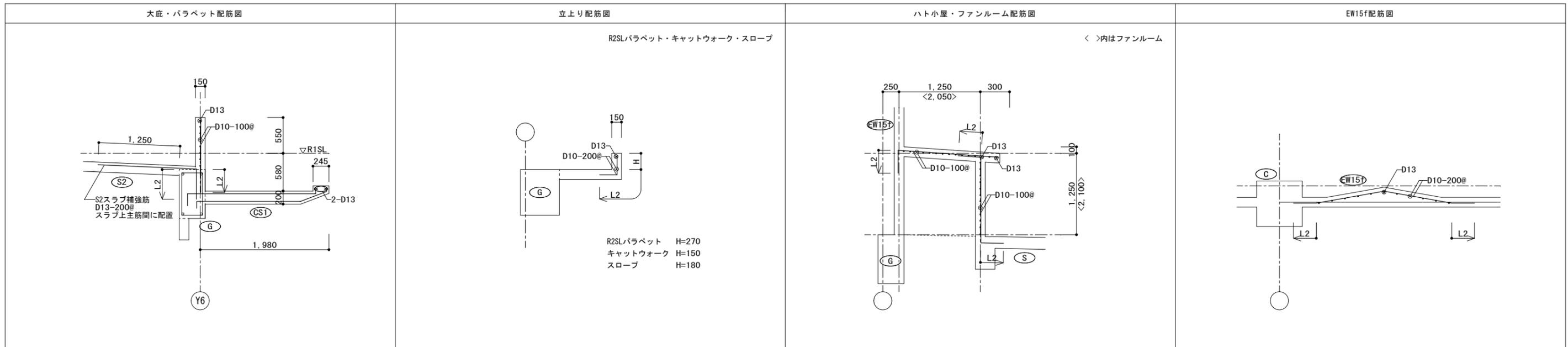
| 符号 | SB35 |
|---------|-----------------------------------|
| 断面 | H-350x175x7x11 (SS400) |
| 階 | R2SL |
| 躯体定着部 | |
| B. PL | BPL-22x620x420 (SN490C) |
| A. BOLT | 8-M20 L=20d (ABR400) 定着板付き ダブルナット |
| 備考 | 無収縮モルタル t=30 |

鉄骨部材リスト 特記なき限り 材質: ガセットプレート:SS400 スチフナー:母材同材質 HTB:S10T めっき:F8T

| 符号 | 断面 | 材質 | 備考 |
|--------------------|--|----------|--|
| SB75 | SH - 750x350x16x36 (めっき) R328.6mで高周波曲げ加工 中央部を40mmむくり加工 | SN490B | ジョイントはリストによる 端部仕口 :2PL-16x100x560 HTB. 8-M22 (P=60) SH1取付部 (P=120) 裏当て金 :16x16角鋼 |
| SB35 | H - 350x175x7x11 (めっき) | SS400 | G・PL- 9 HTB. 3-M24 P=90 |
| SB30 | H - 300x150x6.5x9 | SS400 | G・PL-12 HTB. 3-M20 P=70 |
| T1 | φ - 267.4x12.7 (めっき) | STKN490B | 柱・梁に溶接 |
| b1 | 2[- 150x 75x6.5x10 (めっき) | SS400 | G・PL- 9 HTB. 2-M20 P=60 フィラー-9x80x150@600 HTB. 1-M20 |
| SH1 | L - 75x 75x 9 (めっき) | SS400 | 一般部: G・PL- 9 HTB. 5-M16 P=60 SC取付: G・PL-16 HTB. 5-M16 P=60 |
| タイトフレーム下地 | FB - 6x150 (RC部分) (めっき) | SS400 | A. BOLT. M12 L型埋込100@666 (SS400) |
| タイトフレーム受け (Y1, Y5) | □ -100x100x4.5 (めっき) | STKR400 | A. BOLT. M16@600 L=20d (鉄骨手前でアンカー) |
| 折板 | ハゼ式 H≧165 t=0.8 | | 働幅333 負圧: 1x≧389.8cm ² 負圧: Zx≧38.5cm ³ |
| 折板受 | C - 100x 50x20x3.2 (めっき) | SSC400 | L=300@小梁ピッチに合わせる SB75上に溶接 |

阿賀野市

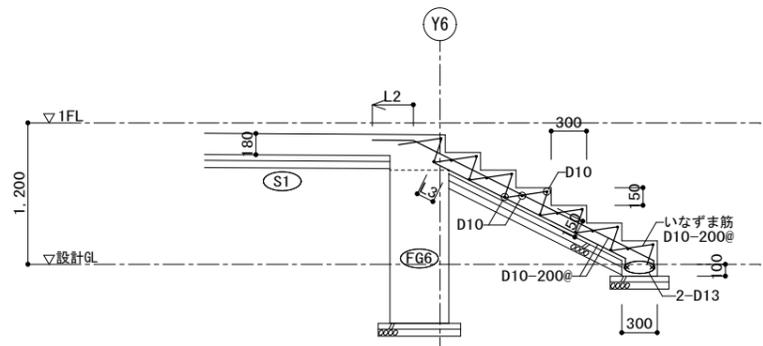
| | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事 (建築) | 区分 実施設計 | 図面番号 S-19 |
| 図面名称 鉄骨部材リスト | 縮尺 A1-1:30 A3-1:60 | 意 電 |



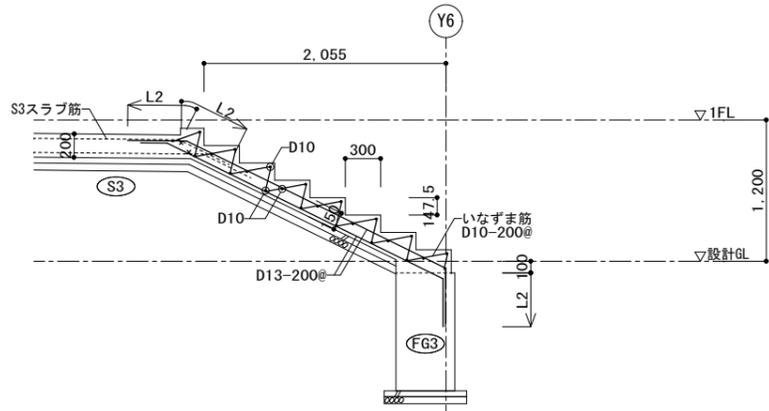
阿賀野市

| | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事 (建築) | 区分 実施設計 | 図面番号 S-20 |
| 図面名称 詳細図 (1) | 縮尺 A1-1:30 A3-1:60 | 窓 電 機 |

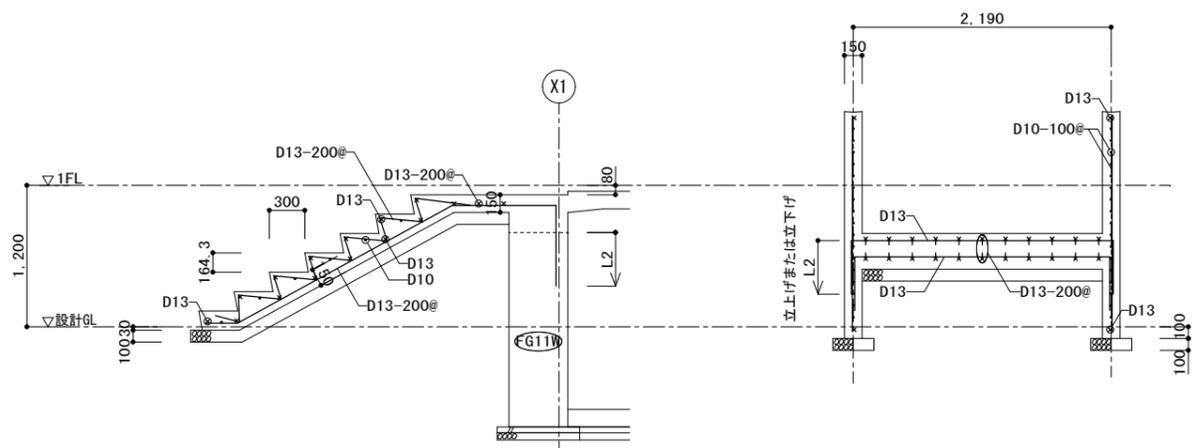
ポーチ階段配筋図



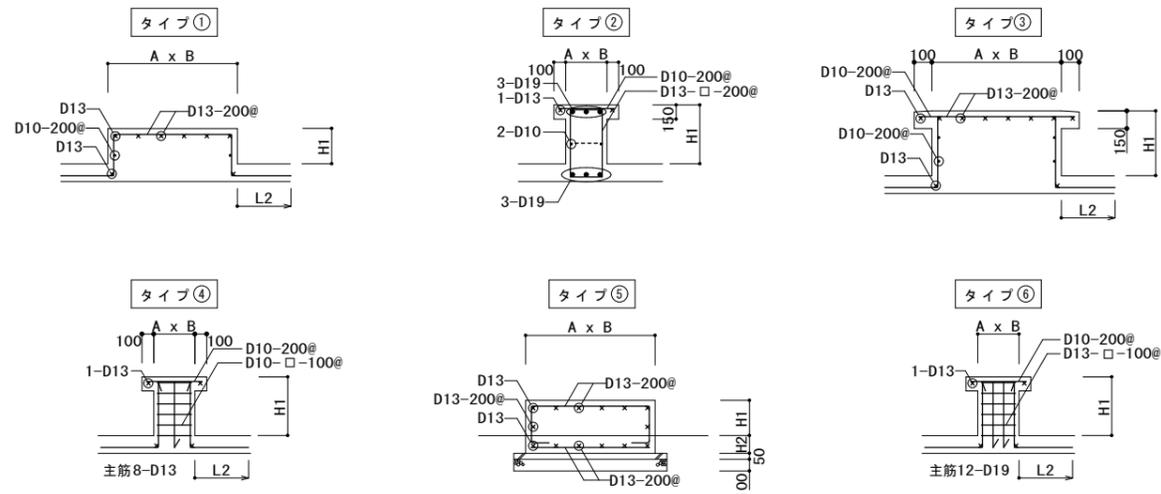
屋外デッキ階段配筋図



プール室外部土間階段配筋図



設備基礎配筋図・スラブ補強要領図



| 記号 | 設置階 | タイプ | A | B | H(H1) | (H2) | 個数 | 備考 | 記号 | 設置階 | タイプ | A | B | H(H1) | (H2) | 個数 | 備考 |
|----|-----|-----|--------|-----|-------|------|----|----------|----|-----|-----|-----|------|-------|------|----|-------|
| Ⓐ | 1 | ① | 意匠図による | | 150 | - | 1 | 機械室機械基礎 | Ⓕ | 2 | ② | 300 | 2900 | 600 | - | 2 | 室外機基礎 |
| Ⓑ | 1 | ① | 意匠図による | | 150 | - | 1 | 機械室機械基礎 | Ⓖ | 2 | ② | 350 | 2300 | 500 | - | 2 | 室外機基礎 |
| Ⓒ | 1 | ① | 意匠図による | | 150 | - | 1 | 機械室機械基礎 | Ⓖ | 2 | ② | 450 | 3700 | 500 | - | 1 | 室外機基礎 |
| Ⓓ | 1 | ① | 意匠図による | | 150 | - | 1 | 機械室機械基礎 | Ⓖ | 2 | ② | 450 | 2400 | 500 | - | 2 | 室外機基礎 |
| Ⓔ | 2 | ① | 650 | 750 | 100 | - | 2 | ファンルーム基礎 | | | | | | | | | |

梁貫通孔の補強要領図

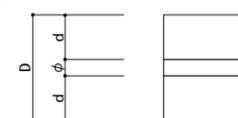
特記外は下記による
 建築工事標準仕様書（令和7年版）に準ずる。
 建築構造設計基準及び同解説（平成16年版）に準ずる。
 S-01構造共通事項の5.鉄筋コンクリート工事（3）も併せて参照のこと

(1) 梁貫通リスト

H型：鉄筋コンクリート造

| 配筋種別 | 凡例 | | | | 配筋図 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----|
| | 斜筋 | 縦筋 | 横筋 | 上下縦筋 | |
| H1 | 2-2-D13 | なし | なし | なし | |
| H2 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | なし | なし | |
| H3 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H4 | 4-2-D16 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H5 | 4-2-D16 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H6 | 4-2-D19 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H7 | 4-2-D22 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H8 | 4-3-D22 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H9 | 4-4-D22 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |

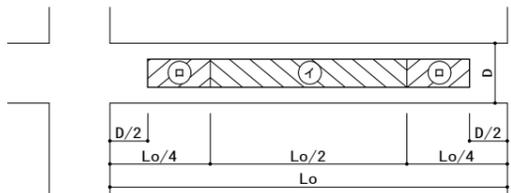
(2) 孔の上下方向の位置は下記に依る



孔の相互の間隔（中心間距離）は孔径の3倍以上とする

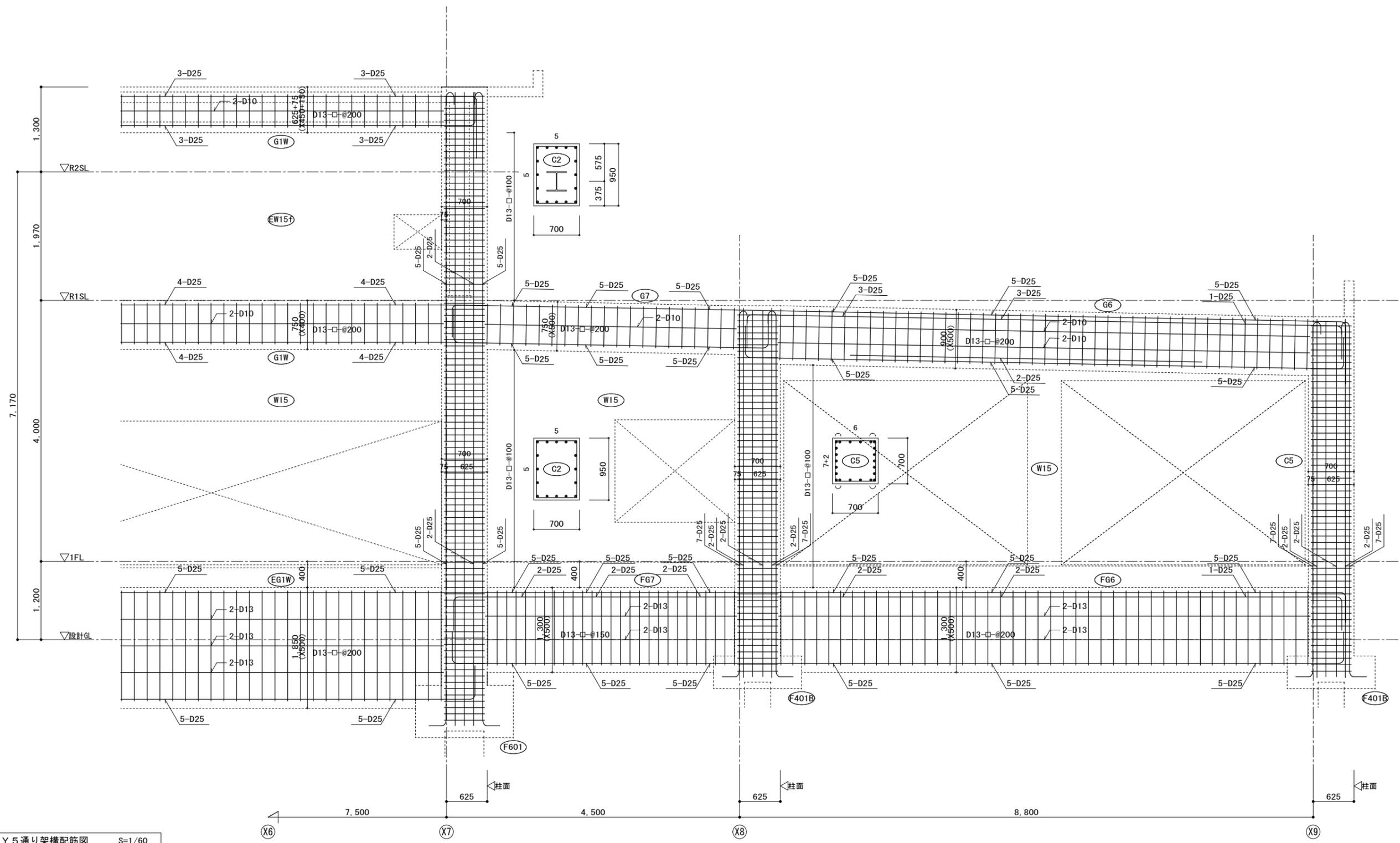
| D | 主筋 | |
|--------------------|--------------|--------------|
| | 1段の場合 | 2段の場合 |
| $500 \leq D < 700$ | $d \geq 175$ | $d \geq 250$ |
| $700 \leq D < 900$ | $d \geq 200$ | $d \geq 275$ |
| $900 \leq D$ | $d \geq 250$ | $d \geq 325$ |

(3) 梁貫通孔の可能範囲は下記に依る



- Ⓘ 範囲 $h \leq D/3$
- Ⓧ 範囲 $h \leq D/4$

原則、柱面から1.5D以上離す。柱面から0.5D以内には貫通孔を設けてはならない。
 柱面から0.5D~1.5D以内に貫通孔を設ける場合、せん断余裕度を1.2倍以上確保する。（基礎梁は1.1倍）
 入通孔は柱面から1.2D以上離す。
 直交する小梁の面から400以上離す。
 貫通孔の上下及び、斜め45°のエリアには貫通孔を設けない。
 ※既成品の梁貫通孔を使用する場合は監督員に確認後、その仕様準ずること



Y 5 通り架構配筋図 S=1/60

阿賀野市

| | | |
|-------------------------|--------------------------------|--------------|
| 工事名称 学校屋内プール整備工事（建築） | 区分 実施設計 | 図面番号 S-22 |
| 図面名称 架構配筋図 | 縮尺 A1- 1 : 30 A3- 1 : 60 | 意 電 |